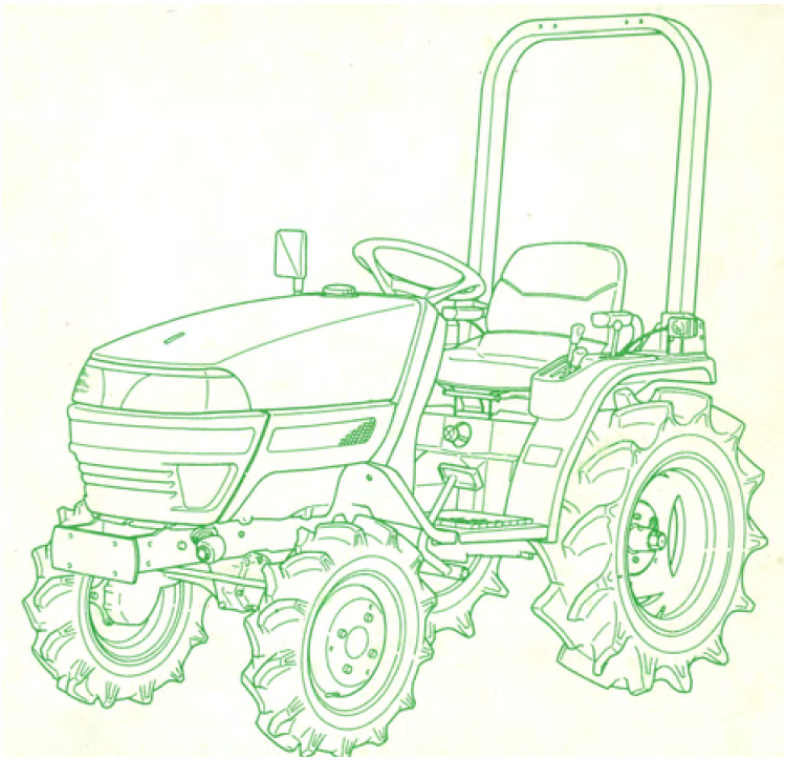
トラクタ

取扱説明書

MT136・146・156



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

もくじ

安全に作業をするために 4

サービスと保証について 24

公道走行とナンバープレートについて 25

仕様について 26

本製品の使用目的について 26

方向・位置マークについて 26

1 各部のなまえ 27
1. 本機 27
2. センターロータリー 29
3. サイドロータリー 30

安全銘板の貼り付け位置 31

各部のはたらき 34

2 運転と作業のしかた 42
1. 作業前の点検 42
2. ならし運転(最初の50時間)について 45
3. エンジンの始動・停止のしかた 45
4. 作業機を上下させるには 47
5. 作業機の降下速度の調節のしかた 48
6. 発進・停止・駐車のしかた 49
7. 道路走行のしかた 50
8. 坂道での運転のしかた 51
9. ほ場への出入りのしかた 52
10. 作業に適した速度の選びかた 52
11. ほ場での旋回のしかた 53
12. ロータリー作業の要領 54
13. ロータリー耕うんのしかた 56
14. デフロックの使いかた 57
15. トラックへの積込み・積降ろしかた 57
16. 後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた 58
17. 油圧外部の取り出しかた 59
18. 外部電源取出端子について 59
19. 作業機の取り扱いについての注意事項 60
20. 折りたたみ式安全フレームの使いかた 61

3 JUSTマチック仕様について(J仕様のみ) 62
1. 各部のなまえとはたらき 62
2. 基本的な使いかた 63
3. センサ異常時の表示について 63
4. ヒューズについて 64
5. 使用後の手入れ 64

4 作業後の手入れについて 65
1. 作業後の手入れ 65
2. 長期間使用しない場合の手入れ 65
3. ボンネットの開閉のしかた 67
4. フロントグリル・サイドカバーの取り外し・取り付けかた 67

5 定期の点検・調整について 69
1. 定期点検一覧表 70
2. オイル・グリス・不凍液一覧表 71
3. 給油・給水一覧表 71
4. 燃料の点検・給油のしかた 72
5. 各部オイルの点検・交換のしかた 72
6. 各部エレメントの交換のしかた 74
7. 冷却水の点検・交換のしかた 76
8. 燃料の空気(エア)抜きのしかた 77
9. ラジエータスクリーンとエアクリーナーエレメントの掃除・交換のしかた 77
10. バッテリの点検のしかた 78
11. パイプ類の点検について 79
12. 電気配線の点検について 79
13. グリスアップ(注入)について 80
14. ブレーキの点検・調整について 80
15. クラッチの点検・調整について 81
16. ハンドルの点検・調整について 81
17. ファンベルトの点検・調整について 82
18. ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について 82
19. タイヤの点検について 83
20. 排気ガスの色について 83

6 ロータリーについて 84
1. 耕うん爪の取り付けかた 84
2. スクレーパの取り付けかた 86
3. 畦畔処理金具の取り付けかた 86
4. ロータリーの取り外し・取り付けかた 87
5. PACワイヤーの取り外し・取り付け・調整のしかた 90
6. 定期点検一覧表 92
7. ロータリーギヤボックスオイルの点検・交換のしかた 92
8. グリスアップ・注油 93
9. 爪の交換時期 94
10. 各部のボルトの締め付け 94
11. リヤカバーバリエーション三角切欠き付〈W仕様〉 95

7 不調診断 96
1. エンジン関係 96
2. クラッチ・ブレーキ関係 98
3. 油圧関係 98
4. 電装関係 98
5. ロータリー関係 99

用語解説 100

仕様 101

ロータリーの仕様 106

標準付属品 107

配線図 108

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、
死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

● 一般的な注意項目

⚠ 警告　排気ガスには充分に注意する

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。
エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

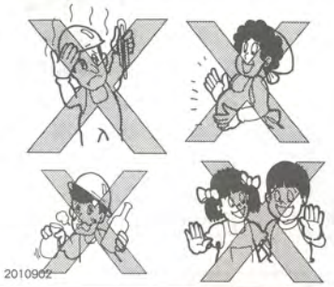
排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010901

⚠ 警告　こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 16才未満の人。指導者のいない未熟練者。


2010902

⚠ 警告　作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した防護具などを付け、だぶつきの無い服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。


2010903

⚠ 警告　シートベルトを必ず装着する

安全フレームを立て、確実に固定し、シートベルトを締めてください。

【守らないと】

転落・転倒事故をおこした場合に、死亡または重傷を負うおそれがあります。


2010904

⚠ 警告　機械を他人に貸すときは取扱方法を説明する

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



2010905

⚠ 警告　運転者以外に人を乗せない

このトラクターの乗車定員は1名です。運転者以外に人を乗せないでください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。


2010906

⚠ 警告　エンジン始動時は必ず運転席にすわり周囲の安全確認をする

エンジン始動時は必ず運転席にすわり、シートの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



2010966

⚠ 注意　マフラの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラは高温ですので、触れないでください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010970

⚠注意　機械の改造禁止

純正以外の部品や指定以外のアタッチメントを取り付けないでください。
改造をしないでください。
【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010907

⚠注意　点検・整備をおこなう

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備してください。
【守らないと】
事故・ケガ、機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

⚠注意　定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
【守らないと】
整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

⚠注意　定期点検整備を受ける

1年毎に定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。特に、パワーステアリングのホース、ブレーキのホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。
【守らないと】
整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



2010908

●作業前後の確認時の注意項目

⚠危険　注油・給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。
【守らないと】
燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。


2010910

⚠危険　燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえ煙草や裸火照明は、絶対にしないでください。
【守らないと】
燃料に引火し、火災をおこすおそれがあります。


2010911

⚠危険　バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検・充電時は火気厳禁です。
【守らないと】
バッテリに引火、爆発してヤケドなどを引きおこすおそれがあります。


2010913

⚠危険　バッテリ液は体につけないようにする

バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
【守らないと】
ヤケドをしたり、服が破れるおそれがあります。


2010914

⚠危険　燃料もれに注意

燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



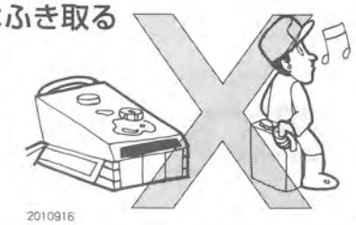
2010915

⚠危険　燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。


2010916

⚠警告　点検整備は平坦で安定した場所で行なう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠警告　マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。


2010924

⚠警告　タイヤには、規定の最大空気圧以上に空気を入れない。

タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。

【守らないと】

タイヤが破裂し、傷害事故をおこすおそれがあります。



2013205

⚠警告　電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。


2010925

⚠警告　ブレーキ・ハンドルの点検を必ずおこなう

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように、またハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。


2010926

⚠警告　高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意　バッテリの取り付け取外しは正しい手順でおこなう

バッテリを取り付けるときは＋側をさきに取り付け、取り外すときは－側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意　点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

⚠注意　カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

⚠注意　点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

⚠注意　使用していないPTO軸にはカバーをつける

PTO軸を使用しないときは、グリスを塗りカバーを付けておいてください。

【守らないと】

巻き込まれたりして傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010944

⚠注意　目的に合った工具を正しく使用する

点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。また点検調整に必要な工具はトラクターに常備しておいてください。

【守らないと】

整備不良で事故を引きおこすおそれがあります。



2010927

●作業機に関する注意項目

⚠警告　作業機の着脱は平坦な場所で行う

作業機の着脱は、平坦で安定した場所でおこなってください。夜間は、適切な照明をしてください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



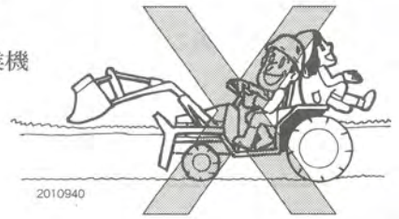
2010939

⚠警告　人や物をウエイト代りにしない

バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010940

⚠警告　トラクターと作業機の周辺に人を近づけない

トラクターを移動して作業機と着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010941

⚠ 警告　重い作業機を付けるときはウエイトでバランスを取る

重い作業機を装着したときは、フロントにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。

【守らないと】

バランスを崩し事故を引きおこすおそれがあります。



2010942

⚠ 警告　トラクターに作業機を装着する時は、作業機の取扱説明書を必ず読む。

トラクターに作業機を装着する時は、事前に必ず作業機の取扱説明書をよく読んでください。

【守らないと】

傷害事故や機械の破損をひきおこします。



2010973

⚠ 警告　傾斜地やけん引作業をするときは、輪距（左右のタイヤ間の幅）を広くする。

【守らないと】

転倒事故を引きおこすおそれがあります。



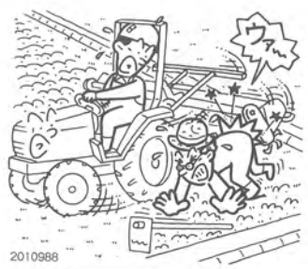
2010943

⚠ 警告　作業機を付けたときは旋回に注意

作業機によってはかなりの長さになるものがありますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。

【注意しないと】

作業機が衝突したりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



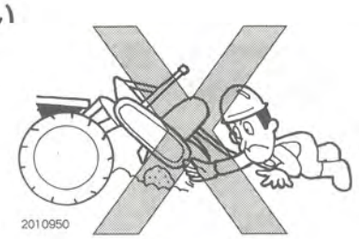
2010988

⚠ 警告　作業機の下にもぐったり、足を入れない

作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。

【守らないと】

作業機が下がったときに、傷害事故を負うおそれがあります。



2010950

⚠ 警告　作業機指定の PTO 回転を守る

低速回転用の作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定の PTO 回転速度を厳守してください。

【守らないと】

作業機が異常作動し、事故や機械の破損を引きおこします。



2010956

●運搬時の注意項目

⚠危険　積込み、積降し時は左右のブレーキペダルを連結する

積込み、積降し時は、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

緊急時ブレーキ操作を行った際、ブレーキが片ぎきして転落などの事故を引きおこします。



2010971

⚠警告　あゆみ板の上では、だ性運転はしない

あゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。
クラッチを踏んだり、主変速、副変速を「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



2010935

⚠警告　強度・長さ・幅の充分あるあゆみ板を使用する

積込み、積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が充分あり、スリップのしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



2010961

⚠警告　登るときは後退、降りるときは前進でおこなう

トラックに積込むときは後退で、降りるときは前進でおこなってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などの事故を引きおこすおそれがあります。



2010985

⚠警告　ロープでトラックに確実に固定する

トラックにのせて移動するときは、駐車ブレーキを掛け、ギヤを入れて強度の充分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

【守らないと】

荷台からトラクターが転落したりして、事故を引きおこすおそれがあります。



2010963

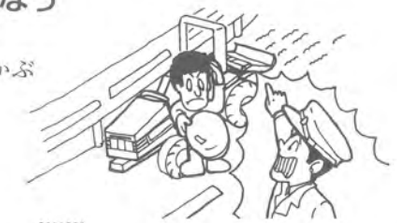
●移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠警告　関係法規を守り安全運転をおこなう

道路を走行するときは、関係法規を厳守し、ヘルメットをかぶってください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。


2010928

⚠警告　周囲の安全を確認して、ゆっくりと発進する

周囲の安全を確認してからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

傷害事故をおこすおそれがあります。



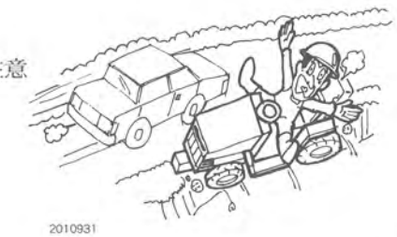
2010929

⚠警告　移動時は路肩に注意

溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に充分注意してください。

【注意しないと】

転落事故をおこすおそれがあります。


2010931

⚠警告 移動走行時は左右のブレーキペダルを連結する

移動走行時には、必ず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。

【守らないと】

ブレーキ操作の際、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。



2010932

⚠警告 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ 禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、充分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、充分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。


2010933

⚠警告 坂道・あゆみ板の上では変速禁止

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道やあゆみ板の上では、変速をしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。


2010934

⚠警告 坂道やあゆみ板の上では、だ性運転はしない

坂道やあゆみ板の上での走行は十分注意しておこなってください。クラッチを踏んだり、主変速、副変速を「中立」位置にしてのだ性運転はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下がり、転落などの事故をまねくおそれがあります。



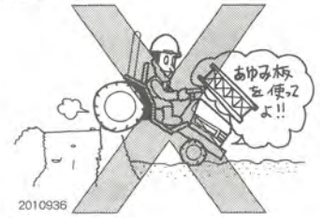
2010935

⚠警告 溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用する

ほ場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るとき、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をおこすおそれがあります。



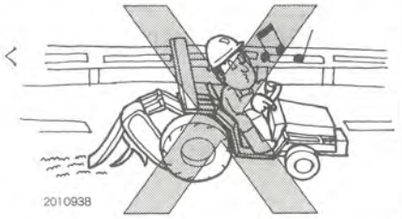
2010936

⚠警告 公道走行時は作業機の装着禁止

公道走行をするときは、ロータリなどの作業機を取り外してください。

【守らないと】

道路交通法違反です。事故を引きおこすおそれがあります。


2010938

⚠警告 公道走行をするときは道路交通法規を厳守してください

【守らないと】

事故をおこすおそれがあります。


2010987

⚠注意 暖気運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

トラクターが自然に動きだし、事故をひきおこすおそれがあります。



2013204

●作業時の注意項目

⚠警告 ハウス内での作業では換気を十分にする

排気ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒を起し、死亡事故にいたるおそれがあります。



2010948

⚠警告 爪に巻き付いた草などを取るときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻き込まれて、重傷を負うおそれがあります。



2010949

⚠警告 子供を近づけない

子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010952

⚠警告 ロータリ作業ではダッシュに注意

地面が硬かったり、石の多いところでは、ロータリをゆっくりと地面に降ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛出す（ダッシュ）ことがあります。

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



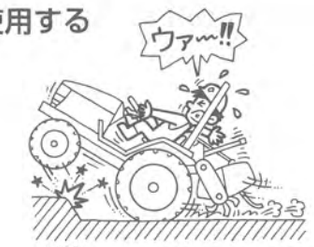
2010953

⚠警告 あぜ越え、段差越えのときはあゆみ板を使用する

田・畑への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときはあゆみ板を使用し、地面に接地しない程度に作業機を下げ重心を低くしてください。

【守らないと】

バランスを崩して転倒するおそれがあります。



2010954

⚠警告 わき見、手放し運転はしない

【守らないと】

傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010955

⚠警告 エンジン始動時は、作業機が下がっているか確認

エンジン始動時は、作業機上下レバー「最下」、PAC レバー「解除」にして、作業機が下がっていることを確認してください。

【守らないと】

作業機が不意に下り、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010968

⚠警告 機械から離れるときは平坦地に置きエンジンを止める

機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止めて、必ず駐車ブレーキを掛け車止めをしてください。また、作業機は地面に接地してください。

【守らないと】

トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。


2010958

⚠警告 旋回時はデフロックを解除する

必ずデフロックを解除して旋回してください。

【守らないと】

思うように旋回ができずに、事故を引きおこすおそれがあります。



2010957

⚠警告 けん引作業はドローバを使用

けん引作業は必ずドローバを使用してください。トップリンクやロアリンクなどでのけん引は絶対しないでください。

【守らないと】

転倒のおそれがあります。



2010986

●作業終了後・格納時の注意項目

⚠危険 注油・給油はエンジンが冷めてからおこなう

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油しないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。



2010910

⚠危険 ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときには、絶対にラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。



2010912

⚠危険 機体カバーは機械が充分冷めてからかける

機械に機体カバーをかける場合は、マフラやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



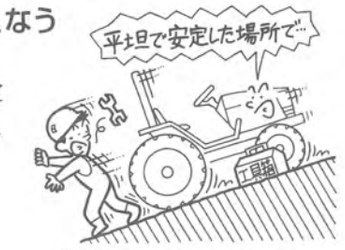
2010965

⚠警告 点検整備は平坦で安定した場所でおこなう

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクターの前輪には車止めをして点検整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



2010922

⚠警告 マフラ・エンジン囲りのゴミは取り除く

マフラやエンジン周辺部にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010924

⚠警告 電気部品・コードを必ず点検

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして、火災事故をおこすおそれがあります。



2010925

⚠警告 長期格納時はバッテリとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合はバッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。



2010964

⚠注意 長期格納時はクラッチを切っておく

長期間格納する際には、必ずクラッチペダルをロック「切」状態にしてください。

【守らないと】

クラッチが切れなくなり、事故を引き起こすおそれがあります。



2010969

⚠注意 高圧オイルに注意

油圧の継手やホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、継手やホースをはずす前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010967

⚠注意 バッテリの取り付け取外しは正しい手順でおこなう

バッテリの取り付けるときは十側をさきに取り付け、取り外すときは一側から取外します。

【守らないと】

ショートして、ヤケドや火災事故を引きおこすおそれがあります。



2010917

⚠注意 点検整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きになるなど、傷害事故をおこすおそれがあります。



2010919

⚠注意 カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取外したカバー類は、必ず取り付けてください。

【守らないと】

機械に巻き込まれて、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



2010920

⚠注意 点検整備は過熱部分が充分冷めてからおこなう

マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから点検整備をしてください。

【守らないと】

ヤケドをするおそれがあります。



2010921

サービスと保証について

保証書について

「**保証書**」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

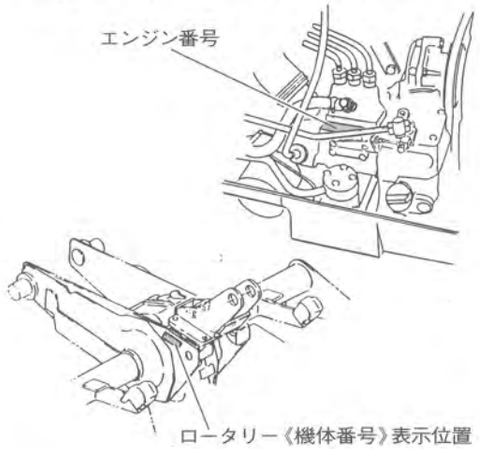
アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに、96ページの「**不調診断**」に従って点検、処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社支店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  (何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
  (約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。





補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

トラクターの保証と点検整備

1)弊社規定の点検整備表に従って、3回の点検整備を受けてください。（トラクター保証書を御参照願います。）

第1回目……納入直後（納品時の取り扱い運転指導を含む）

第2回目……納入後起算1ヶ月または、使用時間50時間のいずれか早い時期。

第3回目……納入後起算11ヶ月または、使用時間300時間のいずれか早い時期。

2)第2回目、3回目の点検整備は、指定の時間、または期日がきたらご購入先販売店または農協に点検整備を申し込み、指定整備工場で点検整備を受けてください。

※エンジンおよび本機で封印されている所はさわらないでください。性能を大きく悪くするばかりか、封印が外れたと認められる場合は、一切の保証を受けられなくなります。

なお、詳しくは保証書をご覧いただくようお願いいたします。

公道走行とナンバープレートについて

公道走行をするためには

⚠警告

●公道走行するときは、道路交通法等の関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

このトラクターは、道路運送車両法の小型特殊自動車です。

- 公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転免許証が必要です。必ず免許証を所持してください。
- 勝手に構造等を変更した場合は、小型特殊自動車の対象外になり、公道を走行することができなくなることがありますのでご注意ください。

小型特殊自動車の大きさ等

車体寸法	全　長	4.7m 以下
	全　幅	1.7m 以下
	全　高	2.0m 以下
最　高　速　度		15km/h 以下
内燃機関の総排気量		1500cc 以下

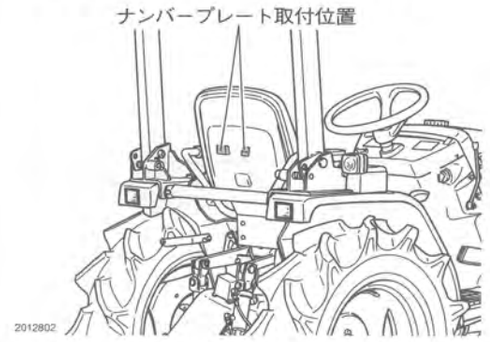
- 作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取り外して走行してください。
- 作業により変更した輪距は、下記の状態に戻してから走行してください。

後輪標準輪距

MT136	750 ㎜
MT146	800 ㎜
MT156	850 ㎜

必ずナンバープレートの交付を受けてください

このトラクターは小型特殊自動車なので、公道走行をするしないにかかわらず、必ずトラクター取得の届け出を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。
交付されたナンバープレートは、ナンバープレート取付位置に取り付けてください。



〈届け出のしかた〉

小型特殊自動車販売証明書（各販売店・農協が発行します）ならびに、小型特殊自動車届け出書に軽自動車税を添えて、市町村役場へ提出してください。

※市町村により、手続きが多少異なりますので詳しくは、販売店または農協にご相談ください。

損害賠償保険について

農耕作業用小型特殊自動車は、自動車損害賠償保険法第2条の「**自動車**」から省かれ、強制保険の対象から除外されております。万一の場合を考えて自動車保険の契約を希望される場合は、自動車共済、または任意自動車保険にご加入ください。

仕様について

本機には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もありますので、ご了承ください。

本書では形式仕様の異なる製品を次のように表示しています。

JUST マチック仕様 ……J	センターロータリー仕様 ……C
低床仕様 ……S	サイドロータリー仕様 ……S
大径タイヤ仕様 ……L	三角切欠リヤカバー仕様 ……W

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場においてのロータリー耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業および路上でのトレーラけん引作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は、保証書をご覧ください。)

方向・位置マークについて



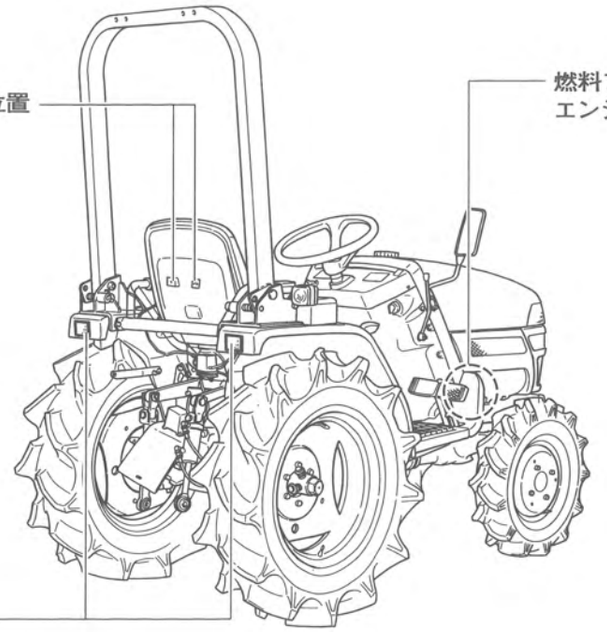
本機のどの位置にあるか、
「見ている方向(←印)」と
「位置(●印)」をあらわしています。

各部のなまえ

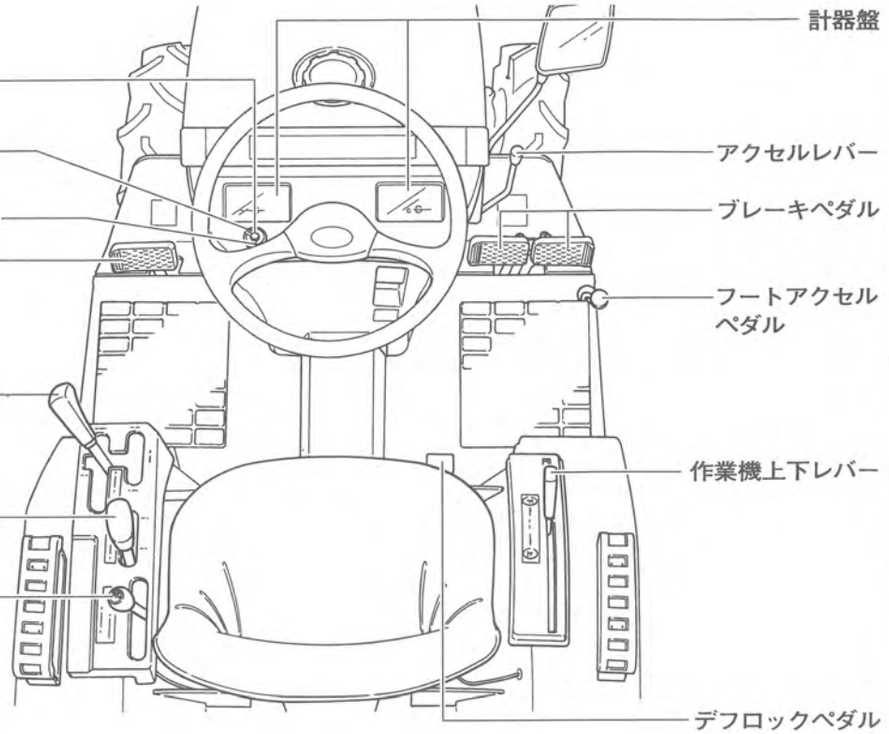
※図は、MT156 を基準にしています。

1. 本機

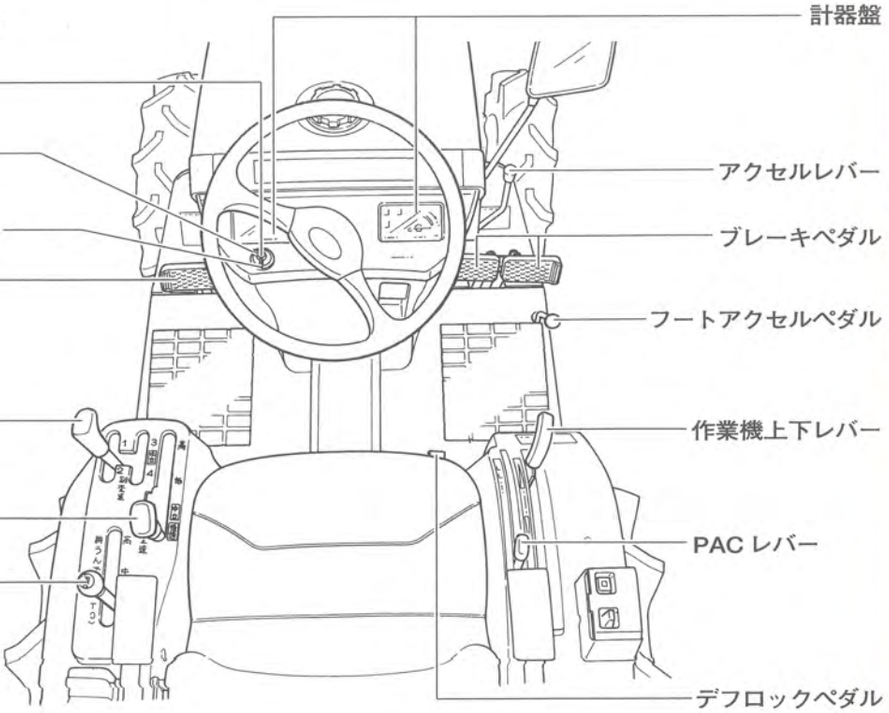




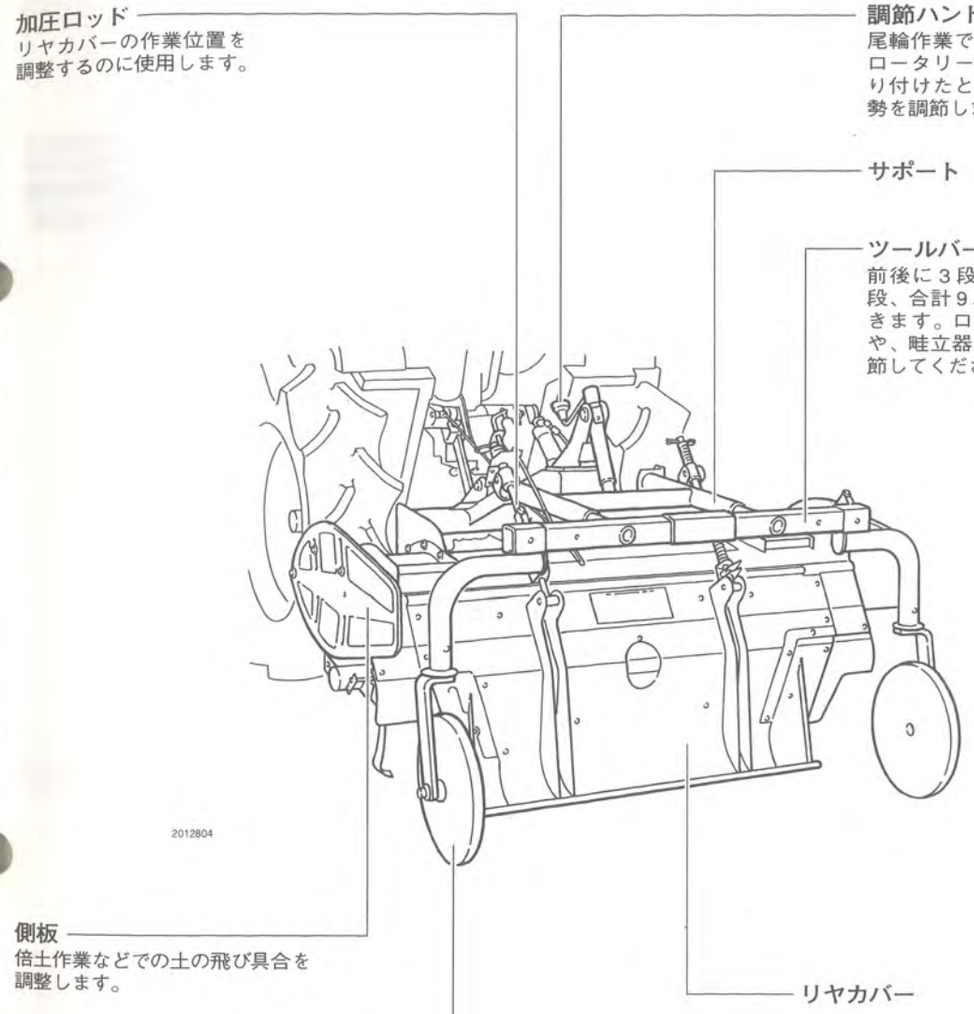
MT136



MT146・MT156



2. センターロータリー



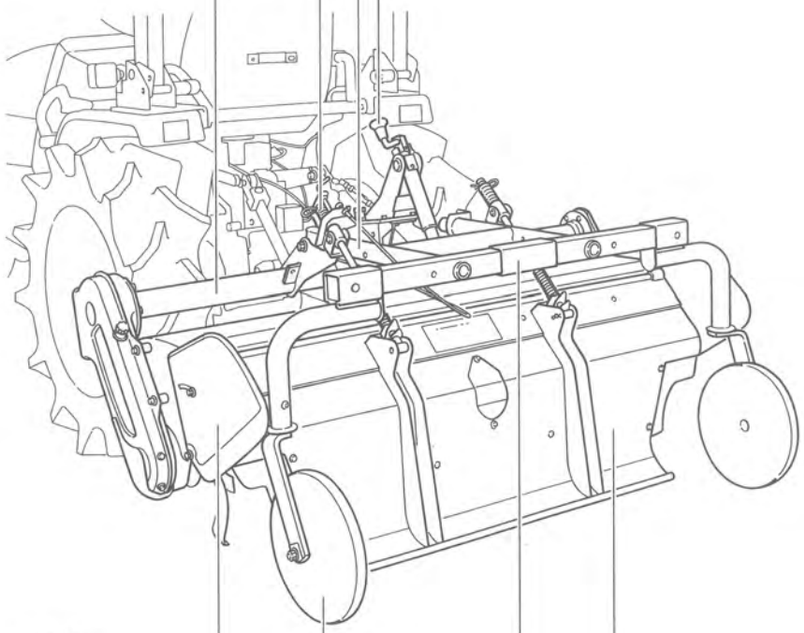
3.サイドロータリー

加圧ロッド
リヤカバーの作業位置を
調節するのに使用します。

アーム

サポート

調節ハンドル
尾輪作業での耕深調節や
ロータリー用作業機を取
り付けたとき作業機の姿
勢を調節します。



2012805

側板
倍土作業などでの土の飛び具合を
調整します。

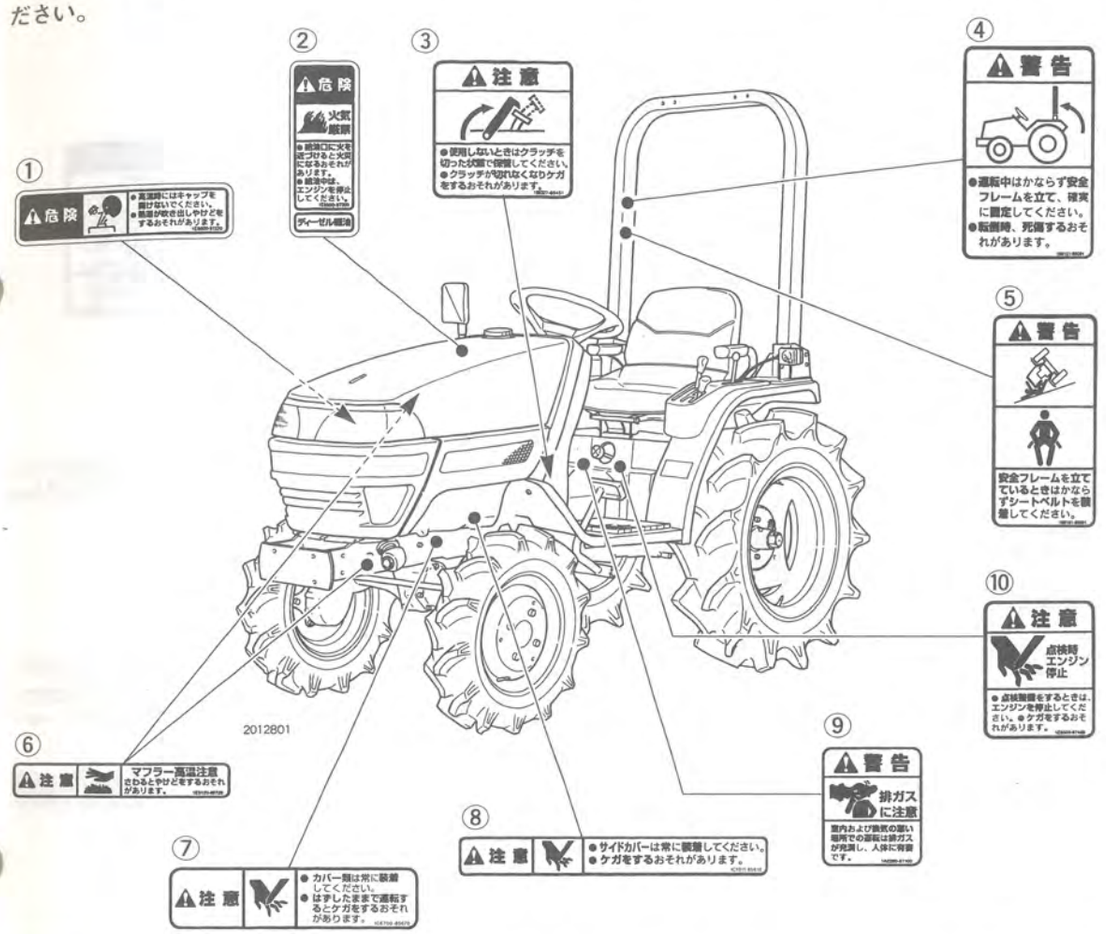
尾輪

リヤカバー

ツールバー
前後に３段、微調整が３段、
合計９段の調節ができます。
ロータリー作業や、畦立器作
業などで調節してください。

安全銘板の貼り付け位置

安全に作業をしていただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。



No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
①	9030 0029 400	危険	⑩	9354 0000 220	注意
②	9354 0000 150	危険	⑪	9030 0029 380	警告
③	9030 0029 370	注意	⑫	9354 0000 230	注意
④	9030 0029 360	警告	⑬	9354 0000 190	注意
⑤	9030 0029 340	警告	⑭	9030 0029 320	危険
⑥	9030 0029 390	注意	⑮	9354 0000 200	注意
⑦	1002 0072 200	注意	⑯	9354 0000 160	警告
⑧	1002 0072 210	注意	⑰	9030 0029 440	注意
⑨	9354 0000 090	警告	⑱	9030 0029 430	警告

⑫

⚠ 注 意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

- エンジン始動時や機械を操作するときは、かならず運転に人がいないことを確認してください。特にこどもはどんなときでも機械にぜったいに近づけないでください。
- エンジン始動時はかならずシートにすわり、負荷作レバーを「中立」にし、ブレーキをかけ、クラッチペダルをいっぱいにふみこんでください。
- 運搬走行時はブレーキペダルを左右連結し、PTOレバーを「中立」にしてください。急発進、急旋回しないでください。
- 傾斜のあるところでは旋回しないよう注意して運転してください。
- トラクターから離れるときはかならず作業機を接地させ、負荷レバーを「中立」にして、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

⑬

⚠ 注 意

取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

- 運搬走行時は運搬速度両の保安基準に適合することが必要です。
- ほ場への出入りは低速でおこない不意時、急斜面等不安定なところではアユミ板等を使用してください。
- 落ち込んでタイヤがスリップしたときはムリに脱出しないでください。
- 運転席席分は危険ですから、手足や衣服を近づけないでください。
- カバー類はかならず所定の位置に取りつけておいてください。
- タイヤの空気圧は左右均等にいれてください。

	規格	Ka-2a	Ka-3a	Ka-4a
標準	前輪	2.2kg/cm²	1.4kg/cm²	1.2kg/cm²
	後輪	1.0kg/cm²		

ハッテリの保守について

日常点検
- バッテリの上面は常に乾燥した状態にしておいてください。
- 電解液が不足しているときは蒸留水をバッテリ液面の上限表示位置（UPPER LEVEL）まで補給してください。

簡単保管
- バッテリを取外して風通しのよい冷暗所に保管してください。
- 月に1度はかならず充電してください。

⑪

⚠ 警告

- 人が作業前の下に入るときは走行防止のためのストップバルブをロック（閉）の方向にいっぱい締込んでください。
- 作業機が落下してケガをするおそれがあります。

⑧

⚠ 注 意

- サイドカバーは常に装着してください。
- ケガをするおそれがあります。

⑭

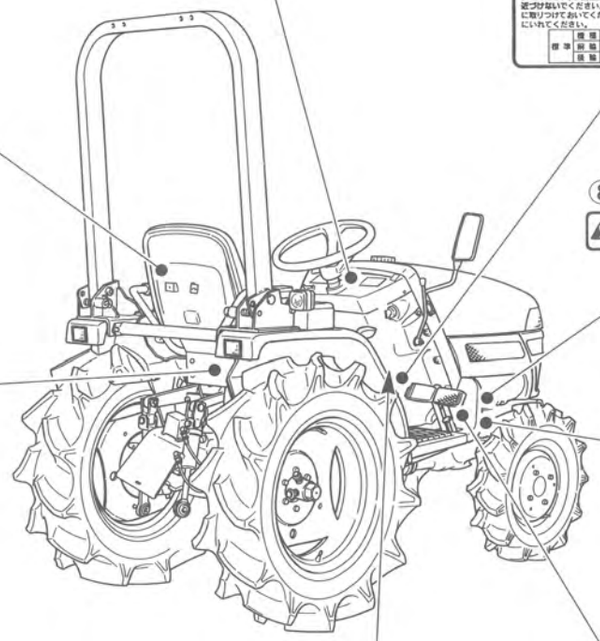
⚠ 危 険

- エンジンまたはPTO軸が回転中は体を近づけないでください。
- 巻き込まれて、ケガをするおそれがあります。

⑦

⚠ 注 意

- カバー類は常に装着してください。
- はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。



2012802

⑯

⚠ 警告

運搬金具

- 運搬走行、車への積降ろしおよびほ場への出し入れは、かならず左右のブレーキペダルを運搬金具で連結して行なってください。
- 運搬金具を連結しないでブレーキペダルをふむと急旋回や転倒のおそれがあります。

⑮

油圧操作要領



耕うん深さ調節	1. レバー①を下げ位置にしてください。 2. 耕深調節はレバー②でおこなってください。 3. 作業機の上げ下げはレバー①で行なってください。
作業後の位置調節	1. レバー②は下げ「深い」の位置にしてください。 2. レバー①で作業後の位置を調節してください。

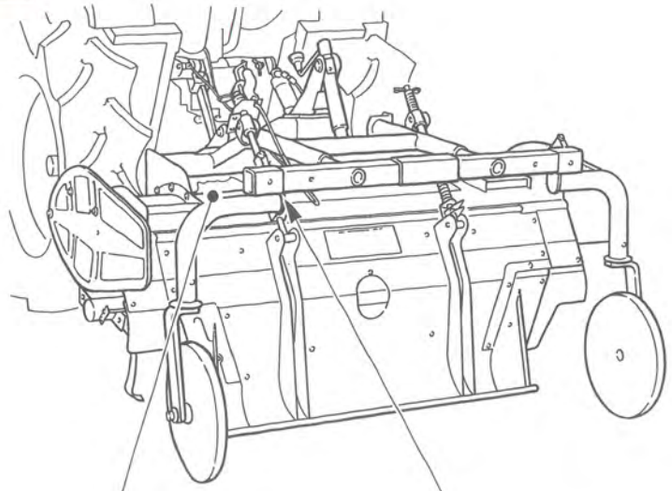


⚠ 注 意

- 走行中はレバー①を最上げにして運搬金具でセットしてください。
- 作業機が落下してケガをするおそれがあります。

(MT146・156のみ)

センターロータリー



2012804

⑰

⚠ 注 意

使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

始動
- エンジン始動時やロータリ関係操作レバーを操作するときは、かならず周囲に人がいないことを確認してください。

運転
- 旋回時、バック走行時やロータリを上下位置に操作するときはまわりや後方をよく確認してください。
- ロータリの上に人を乗せないでください。
- 未耕地や石の多い圃場では逆転による耕うんは行なわないでください。
- ロータリに作溝器を装着するときは作業機の取扱説明書をよく読んで適切な装備や調整を行なってください。

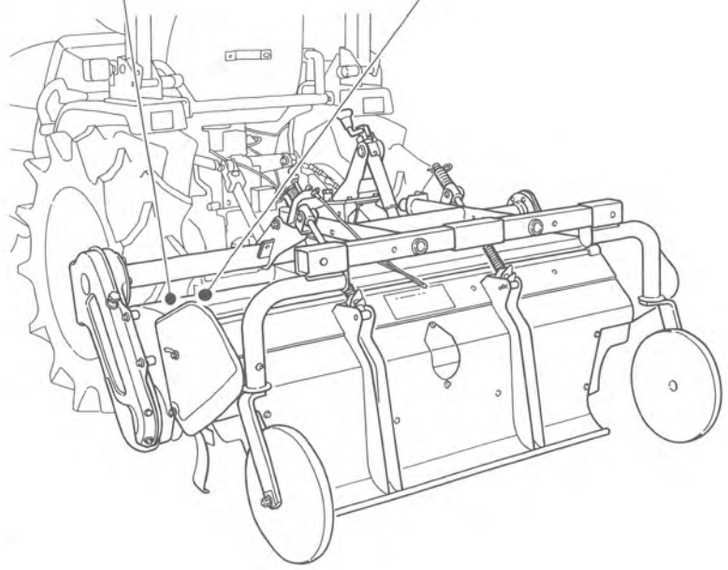
整備
- 耕うん爪の交換等を行なうときはエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用のストップバルブを締めてから行なってください。
- ロータリを整備するときはトラクターとロータリの間に立たないでください。

⑱

⚠ 警告

- エンジンまたはロータリが回転中は、手や足をロータリの中や下へ入れないでください。
- ケガをするおそれがあります。

サイドロータリー



2012805

エンジンコントロール関係



❶メインスイッチ



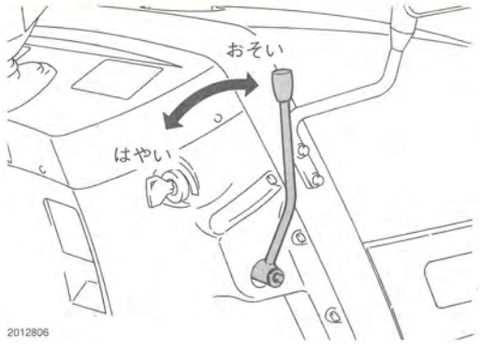
エンジンの始動・停止に使用します。

「停止」　エンジンが停止し、電流が流れません。(キーを抜き取れます)

「運転」　各電装品スイッチに電流が流れます。
エンジンが停止している場合、エンジン油圧パイロットランプとチャージパイロットランプが点灯します。また、外気温度によりサーモスタートパイロットランプも点灯します。

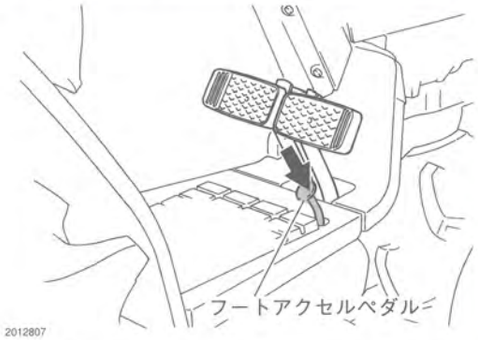
「始動」　セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動したらキーから手を離してください。キーは自動的に「運転」の位置に戻り、連続運転に入ります。

❷アクセルレバー



エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

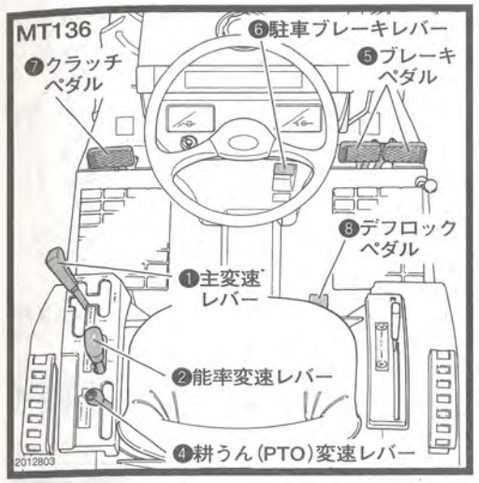
❸フートアクセルペダル

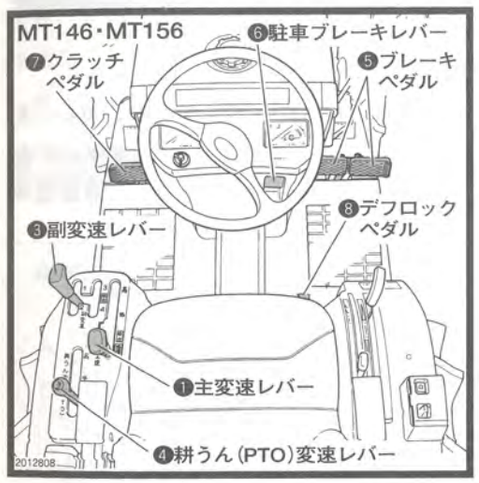


エンジン回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

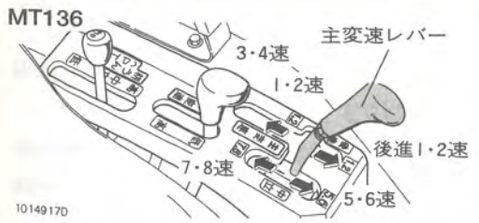
各部のはたらき—なまえとはたらきをよく覚えてください。

走行・PTO関係

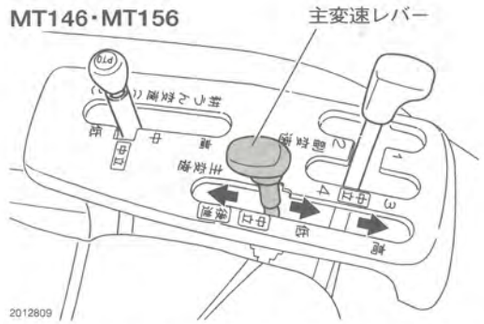




❶主変速レバー



主変速レバーは、走行速度前進4段・後進1段に変速ができます。クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

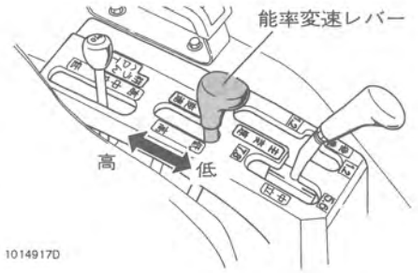


主変速レバーは、走行速度前進2段・後進1段に変速ができます。クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

【取扱いの注意】

- **主変速のシフト操作は、機械が停止してから行ってください。**

❷能率変速レバー(MT136のみ)

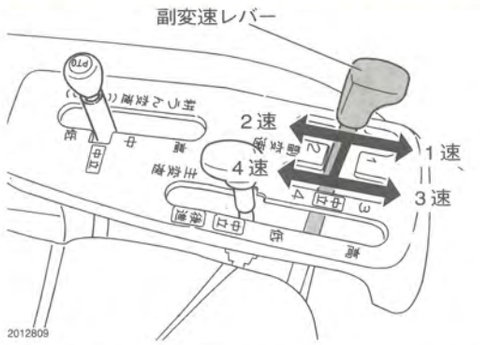


能率変速レバーは、2段階に調節でき、主変速との組合わせで前進8段・後進2段の変速ができます。

【取扱いの注意】

- **作業中、主変速「1・2」「3・4」の位置では能率変速での「高」↔「低」の変速はノークラッチでできますが、「5・6」「7・8」の位置ではクラッチを踏んで変速してください。**
- **車速、作業条件によっては「ギヤ音」が発生します。その場合はクラッチを踏んで変速してください。**
- **「旋回中」は使用しないでください。**

❸副変速レバー(MT146・MT156のみ)



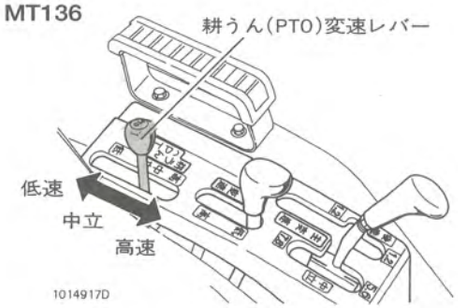
副変速レバーは、4段階に変速でき、主変速との組合わせで、前進8段・後進4段の変速ができます。
クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

❹耕うんPTO変速レバー

⚠注意

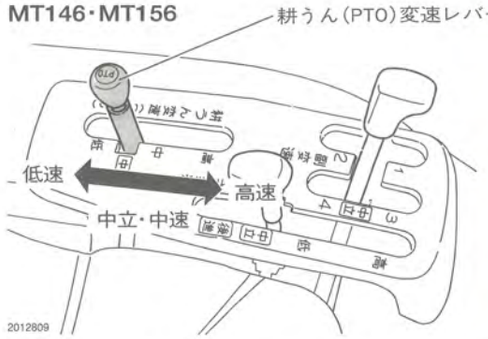
- **作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機が壊れ事故をおこすおそれがあります。**

MT136



PTO軸（動力取出軸）の回転数を正転2段階に変速できます。
クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

MT146・MT156

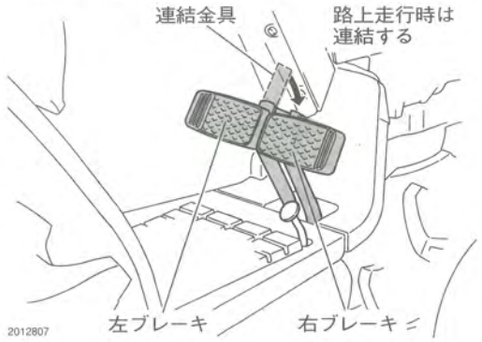


PTO軸（動力取出軸）の回転数を正転3段階に変速できます。
クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで変速してください。

❺ブレーキペダル

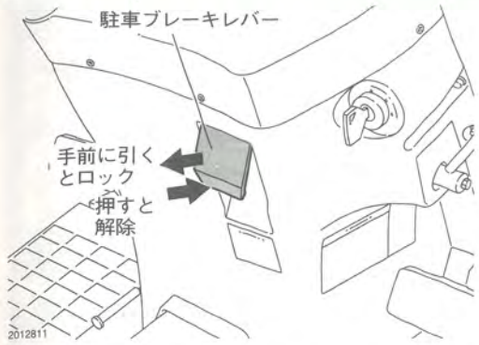
⚠警告

- **移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。さもないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**



ブレーキペダルは左右独立しており、ほ場内で小回りする場合に旋回したい側のブレーキペダルを踏み込むと、踏み込んだ側の後輪の動力がたたれ、ブレーキがかかり、小回りができます。
路上走行時は、必ず連結金具で左右のブレーキペダルを連結して走行します。

❻駐車ブレーキレバー



ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、レバーを手前に引くと駐車ブレーキがかかります。解除するときは、ブレーキペダルを強く踏み込み、手で解除方向へ押すと解除されます。
※左右のブレーキペダルは、連結金具で連結しておいてください。

❼クラッチペダル



エンジンの動力を断続するのに使用します。

❽デフロックペダル

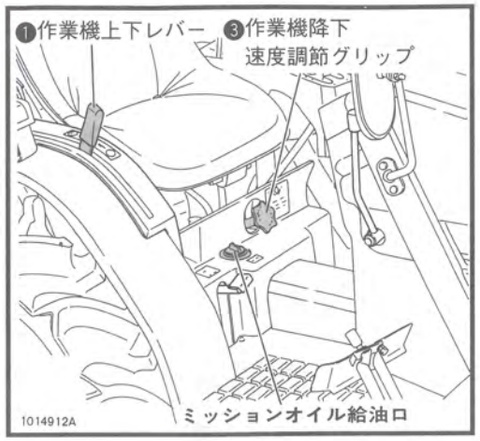
⚠警告

- **旋回時は、かならずデフロックを解除して旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに、事故をおこすおそれがあります。**



後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置で、スリップして走行しにくいときに役立ちます。

油圧関係

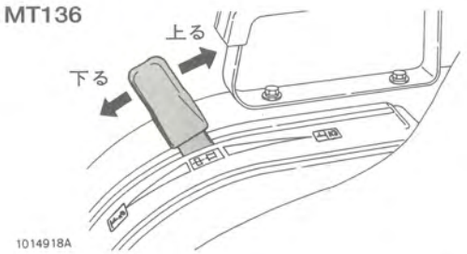


❶作業機上下レバー

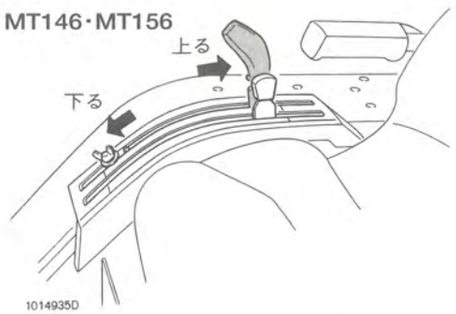
⚠警告

- **人が作業機の下にいないことや、足を踏み込んだりしていないことを確認してから操作してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**

MT136

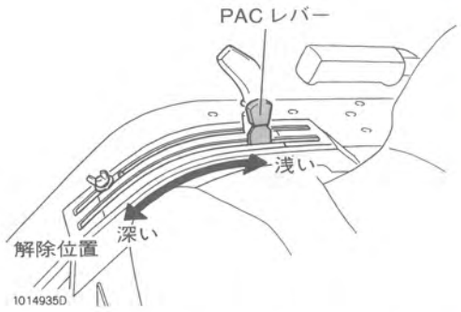


MT146・MT156



作業機を上げ、下げするのに使用します。

❷PAC レバー（耕深自動調節）



ロータリー耕うん作業での耕深調節を行います。

※解除位置では耕深自動調節は作動しません。

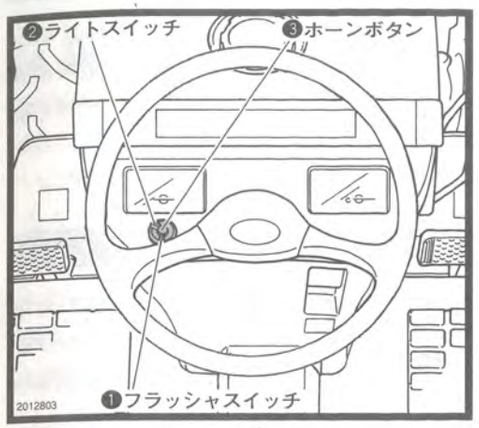
❸作業機降下速度調節グリップ



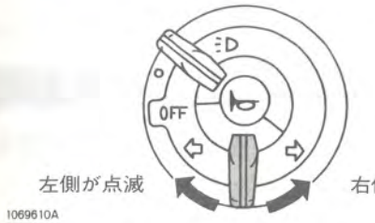
作業機の下降速度を調節するのに使用します。

また、「**右**」方向へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

電装関係

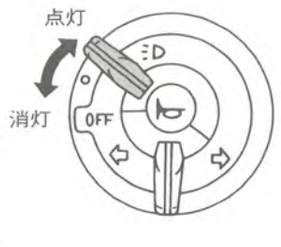


❶フラッシャスイッチ



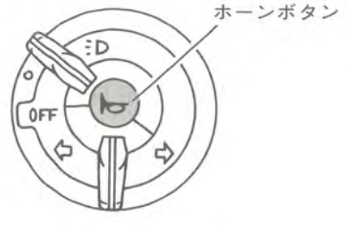
メインスイッチが「**運転**」位置のとき、旋回する側の矢印方向にフラッシャスイッチを回すと、フラッシャランプが点滅し旋回方向を知らせます。

❷ライトスイッチ



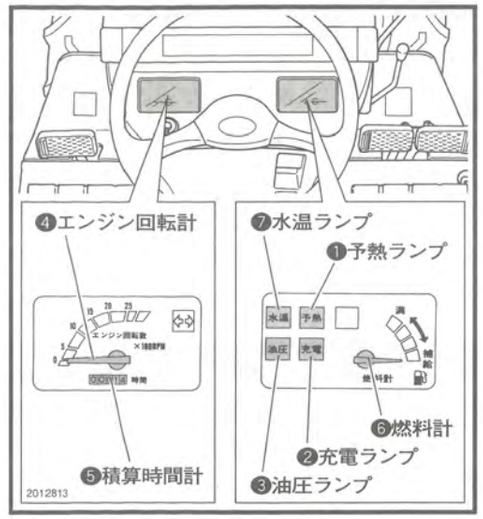
メインスイッチが「**運転**」位置のとき、ライトスイッチを右側に回すと、ヘッドランプが点灯します。

❸ホーンボタン



メインスイッチが「**運転**」位置のとき、ホーンボタンを押せば、ホーンが鳴ります。

計器関係



❶予熱ランプ



メインスイッチを「**運転**」の位置にすると、点灯してグローに通電したことを示します。ランプが消えてから「**始動**」位置に回しエンジンを始動します。

予熱ランプ点灯時間は3～4秒です。

②充電ランプ



1014914C

メインスイッチが「運転」の位置で、ランプが点灯しており、始動後エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するときは、1500rpm以上にしてください。

③油圧ランプ



1014914C

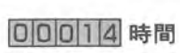
メインスイッチを「運転」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に以上が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。

④エンジン回転計



エンジン回転数を指針で示します。

⑤積算時間計



1014914C

トラクターの使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。

⑥燃料計



燃料の残量を指針で知らせます。針が補給位置を示した場合は早めに燃料を補給してください。

⑦水温ランプ

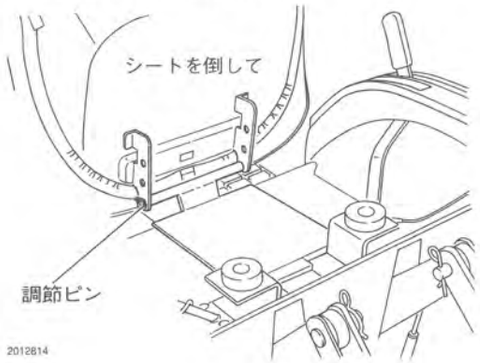


運転中の冷却水温の異常を示します。水温ランプが点灯した場合は、作業を中断して点検してください。

その他

ドライバーシート調節ピン

ドライバーシートを運転者の体格に合わせて3段階に調節するのに使用します。



2012814

シートベルト

⚠警告

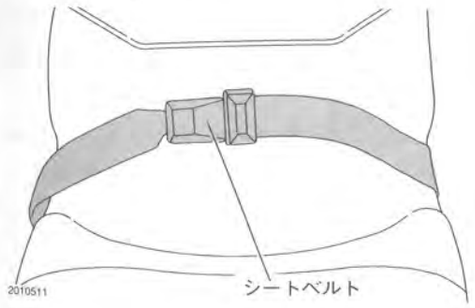
- **安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを着用しないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では、安全フレームの役目をしません。**
- **トラクターを運転するときには、かならず安全フレームを立てた上で、シートベルトを着用してください。**

守らないと、転落・転倒事故のとき、死亡または重傷のおそれがあります。

シートベルトは、運転する前に必ず装着してください。

ドライバーシートを正しい運転姿勢位置にし、上体を起こしてすわります。腰骨にかかる位置にベルトがねじれないようタングプレートをバックルの中へ「カチリ」と音がするまで差し込みます。

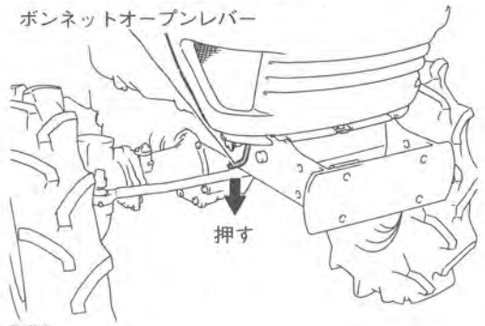
外すときは、バックルのPRESSボタンを押します。



2010511

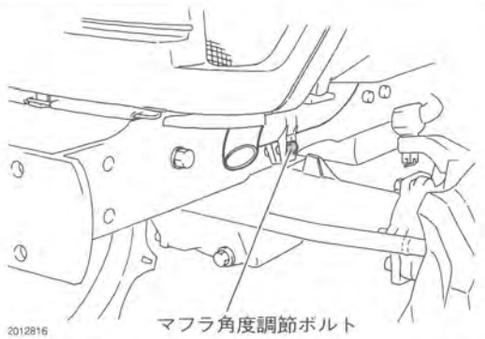
ボンネットオープンレバー

ボンネットを開けるときに使用します。ボンネットオープンレバーを下に押すと、ボンネットのロックが解除されます。



2012815

マフラ角度調節ボルト



2012816

角度調節ボルトをゆるめて、マフラの噴出口を90°回すことができます。作業に合わせて噴出口を調節してください。

1.作業前の点検

⚠危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますので、かならず点検してください。
  守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

- 点検整備は、交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で車止めをした上で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の下へ入るときは、作業機降下速度調節グリップをいっぱいに締め込んで油圧をストップさせてください。守らないと、何らかの原因で、作業機が急に下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 点検・整備の修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、マフラやエンジンなどの過熱部分が十分に冷めてから行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。
- 点検・整備などで取外したカバー類は、かならず取付けてください。守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する人が一日一回、作業前の点検を行うようにしてください。異常箇所は直ちに整備し、作業終了時も異常がないかチェックしてください。
点検は次の順序で行ってください。

❶前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、作業に支障がないか点検します。

❷トラクターのまわりを回ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…83ページ


2010567

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ
- ホイールのボルトのゆるみ…58ページ

❸ボンネットを開けてみて

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…72・79ページ


2010569

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…72ページ


2010568

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…76・79ページ


2010549

- バッテリ液の量…78ページ


2010570

- エアクリーナーの汚れ…77ページ


2010571

- 冷却ファンベルトの張りと損傷…82ページ


2010572

●ラジエータグリルやエンジンルーム内のホコリやゴミ…77ページ



2010561

●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…79ページ



2010562

❹ロータリー側へ回ってみて

●ドライブシャフトロックピンのPTO軸への挿入状態
●各部のRピンの差し込み状態
●爪取付ボルトのゆるみ
●ロータリーギヤボックスのオイル量
●ロータケースのオイル量



2012830

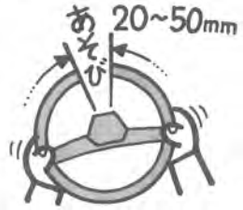
❺運転席に座ってみて

●ブレーキの作動具合と遊び量…80ページ



2010564

●ハンドルの遊び量…81ページ



2010565

●クラッチペダルの作動具合と遊び量…81ページ



2010564

❻エンジンを始動してみて

●エンジン始動後の異音



2010566

●排気ガスの色…83ページ



2010557

●ランプ・メータ類の作動…39・40ページ



2010558

2. ならし運転（最初の50時間）について

新車は使用時間50時間までの取り扱いが大変重要です。
トラクターの寿命、性能に大きく影響します。この期間中は、次の点に注意して、正しく取り扱ってください。
①急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
②必要以上のスピードや負荷をかけないでください。
③運転はエンジンが十分に暖まってから行ってください。
④悪路や傾斜地では、速度を落としてゆっくり走行してください。
⑤使い始めて最初の50時間目には、70ページの「**定期点検一覧表**」に従い各部の点検、オイルの交換などをしてください。

3. エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

- **エンジン始動時は、かならず運転席に座ってレバーの位置と周囲の安全を確認してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **閉めきった室内ではエンジンを始動しないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **機械を使う前と後には、かならず点検・整備をしてください。特に、クラッチ・ブレーキ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検・整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。**
- **暖気運転中は駐車ブレーキをかけてください。守らないと、何らかの原因でトラクターが走りだし、事故をおこすおそれがあります。**

【取扱いの注意】

- **寒冷時は油圧系の性能を十分に発揮するために、下表を目安に暖機運転を長めに行ってください。**

気　温	暖機運転時間
0℃～-10℃	10分以上
-10℃～-20℃	20分以上
-20℃以下	30分以上

始動のしかた

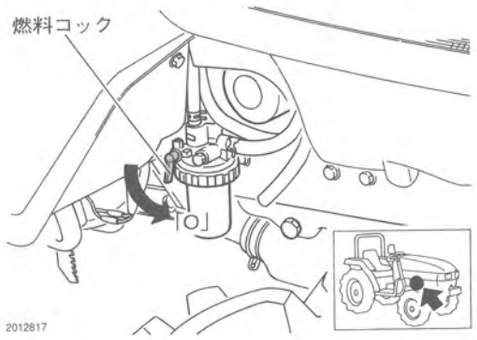
⚠注意

- **作業機上下レバーが「下る」位置、PACレバーが「解除」位置でない場合、また、リフトランプが点灯しているときにはエンジンを始動しないでください。守らないと、作業機が急に上がって、傷害事故をおこすおそれがあります。**

【取扱いの注意】

- **セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。**
  (10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑤の操作を繰返してください。)
- **エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「始動」位置にしないでください。**

①ボンネットを開け、エンジンサイドカバーを外します。(67ページ参照)
燃料コックを「O」位置(開の状態)にします。



2012817

②主変速レバー、耕うん（PTO）変速レバーを「中立」位置にします。
③作業機上下レバーを「下る」位置、PACレバーを「解除」位置にし、メインスイッチを「運転」位置にします。



2013202

④アクセルレバーを「はやい」方向へいっぱいに引きます。
⑤メインスイッチを「運転」位置にして、予熱ランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、メインスイッチを「始動」位置にします。
⑥エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。
※エンジンが暖まっているときは、予熱ランプは瞬時に消えます。
※安全スイッチの働きにより、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとセルモータが回りませんので、エンジンの始動ができません。



1014909C

⑦アクセルレバーでエンジン回転を1500回転ぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

停止のしかた

①アクセルレバーを「おそい」方向へいっぱいに戻して、メインスイッチを「停止」位置にするとエンジンが停止します。
②キーを抜き取ります。



2012832

4.作業機を上下させるには

作業機を上下させるには、作業機上下レバーを使用します。

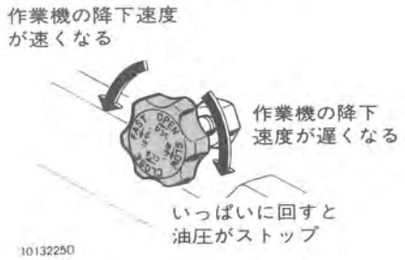

10149218

5.作業機の降下速度の調節のしかた

⚠警告

- 作業機の下にもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。守らないと、何らかの原因で作業機が下がったときに、傷害事故をおこすおそれがあります。

作業機の降下速度を調節する場合は、作業機降下速度調節グリップを「左」方向へ回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向へ回すと作業機の降下速度は遅くなります。
「右」方向へいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。



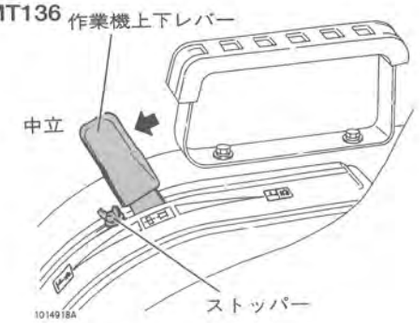
⚠注意

- 作業機降下速度調節グリップを一杯に締め込んだまま、作業機上下レバーを操作しないでください。守らないと、油圧部品の破損をひきおこします。

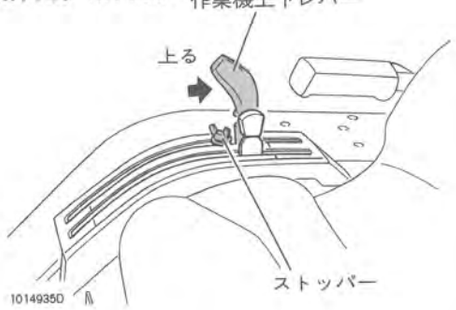
【取扱いの注意】

- 路上走行するときは、作業機降下速度調節グリップは開いたままで、作業機上下レバーを「中立」または「上」位置にして、ストッパーでロックして走行してください。

MT136



MT146・MT156



6.発進・停止・駐車のしかた

⚠警告

- 発進するときは、周囲の人に合図して周囲の安全を確認した上で、急発進しないようにゆっくり発進してください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 移動走行時には、かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回したり、転倒したりするおそれがあります。
- トラクターからはなれるときには、平坦で安定した場所に置き、かならず駐車ブレーキをかけ、主変速レバーと副変速レバーを「中立」位置にし、作業機を接地させてエンジンを止め、車止めをしてください。守らないと、トラクターが動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

①ブレーキペダルが連結金具で、左右連結されていることを確認します。
②アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。
③作業機上下レバーを「上」位置にして、作業機を最上昇位置にします。
④クラッチペダルを踏み込んで、能率変速レバー、または副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は53ページを参照してください。



⑤クラッチペダルをゆくっり離しますと、トラクターが動きはじめます。

⚠注意

- 走行中・作業中は、絶対にクラッチペダルの上に足を乗せないようにしてください。守らないと、事故やクラッチの早期磨耗をひきおこすおそれがあります。

【取扱いの注意】

- 副変速レバーは、必ず機体が停止してから操作してください。
- 作業中、主変速「1・2」「3・4」の位置では能率変速での「高」↔「低」の変速はノークラッチでできますが、「5・6」「7・8」の位置ではクラッチを踏んで変速してください。

停止・駐車のしかた

①アクセルレバーを「**おそい**」方向へいっぱいに戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、主変速レバーを「**中立**」位置にします。

②左右のブレーキが連結金具で連結されていることを確認し、ブレーキを踏み込んで駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキをかけます。

③作業機を取り付けている場合は、作業機上下レバーを「**下**」位置にして作業機を降ろします。



1014910C

④メインスイッチを「**停止**」位置にして、エンジンを停止します。

7.道路走行のしかた

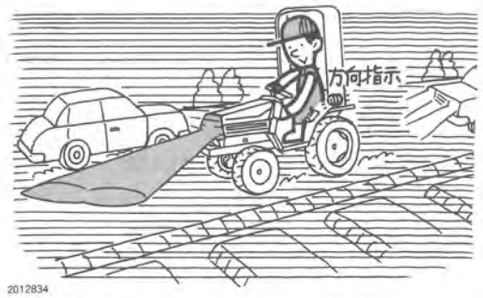
⚠警告

- **路上走行時やあぜ越え時にはかならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、急旋回や転倒するおそれがあります。**
- **公道を走行するときは、道路交通法等関係法規を厳守してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **このトラクターの乗車定員は１名です。運転者以外に人を乗せないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **公道走行するときは、ロータリーなどの作業機を取り外してください。道路交通法違反です。また、事故をおこすおそれがあります。**

- 耕うん（PTO）変速レバーを「**中立**」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 走行スピードはアクセルレバー（フートアクセルペダル）で調節してください。
- 進路変更するときは、方向指示器によって進行方向を他の車に知らさなければなりません。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。
- 夜間走行時は、ライトを点灯してくださ



2012834

8.坂道での運転のしかた

⚠警告

- **あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道の上では、変速をしないでください。**
- **坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。**
- **坂道では主変速レバー・副変速レバーを「中立」位置にしないでください。**
- **坂道では駐車しないでください。守らないと、トラクターが坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。**
- **上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり事故をおこすおそれがあります。**
- **坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。**
- **変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキでロックしてください。**

守らないと、事故をおこすおそれがあります。



1014907A

9.ほ場への出入りのしかた

⚠警告

- かならず左右のブレーキペダルを連結金具で連結してください。守らないと、ブレーキが片ぎきし、転倒するおそれがあります。
- ほ場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、作業機を下げ重心を低くしてください。
- 急な傾斜を登る場合は、後進で、降りる場合は前進で行ってください。
  守らないと、バランスをくずし、転倒・転落のおそれがあります。

ほ場への出入りは、ほ場に対して、直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクターの後輪があぜにあがると同時に作業機を上げてください。

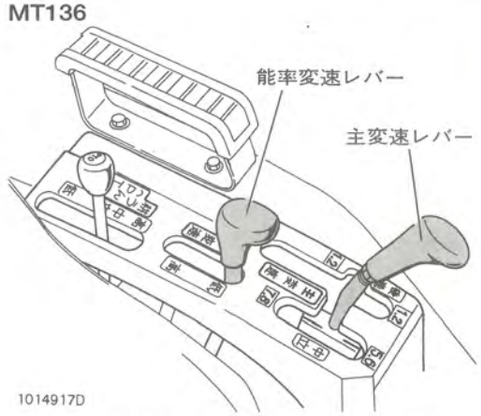


1014949C

10.作業に適した速度の選びかた

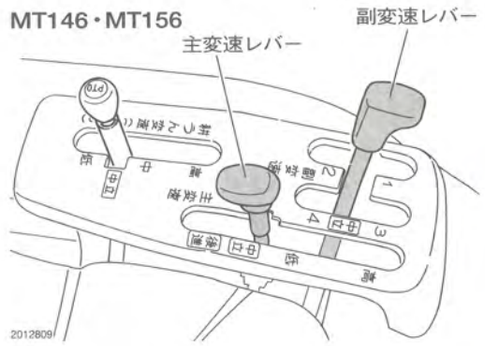
主変速レバーと能率変速レバー、または副変速レバーの組合せにより、**MT136**は前進8段・後進2段、**MT146・MT156**は前進8段・後進4段の速度ができます。次ページの表を参考にして、作業に合った速度を選んでください。

MT136



1014917D

MT146・MT156



2012809

車速（km/h）

MT136

変速段数	主変速	能率変速	車　速（km/hr）
			MT136
1	1・2	低	0.68
2		高	1.03
3	3・4	低	1.33
4		高	2.02
5	5・6	低	4.08
6		高	6.18
7	7・8	低	7.98
8		高	12.1
R 1	後進 1・2	低	1.26
R 2		高	1.91

MT146・MT156

変速段数	副変速	主変速	車　速（km/hr）	
			MT146	MT156
1	1	低	0.72	0.75
2		高	1.10	1.13
3	2	低	1.42	1.47
4		高	2.16	2.22
5	3	低	4.36	4.49
6		高	6.61	6.82
7	4	低	8.53	8.80
8		高	13.0	13.4
R 1	1	後進	0.54	0.55
R 2	2	後進	1.06	1.09
R 3	3	後進	3.24	3.34
R 4	4	後進	6.34	6.54

変速段数	適用作業
1	荒起し
2	細土
3	畦立・マルチ
4	掘取
5	代かき
6	中耕培土
7	ブラス・スキ
8	施肥・播種
	トレーラ
	道路走行

11.ほ場での旋回のしかた

⚠警告

- かならず、デフロックを解除して旋回してください。守らないと、思うように旋回ができずに事故をおこすおそれがあります

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください。

①作業機を上げます。

②左右ブレーキペダルを連結している連結金具を外します。

③ハンドルを切ると同時に、旋回しようとする側のブレーキペダルを踏み込むと小回りができます。



1014907B

12. ロータリー作業の要領

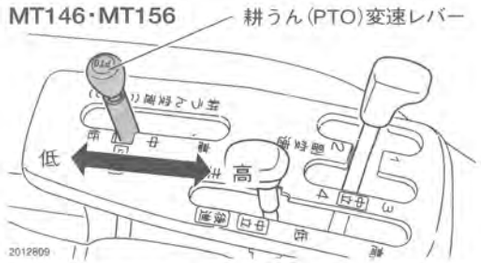
運転操作の手順

①ロータリー爪の回転数を、耕うん（PTO）変速レバーで、ほ場の条件、作業に合わせて下表を参考にして選んでください。

MT136



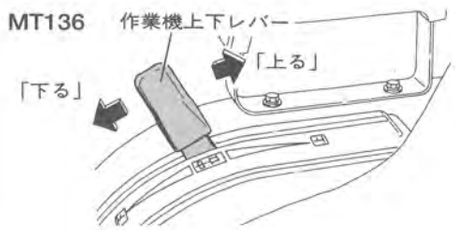
MT146・MT156



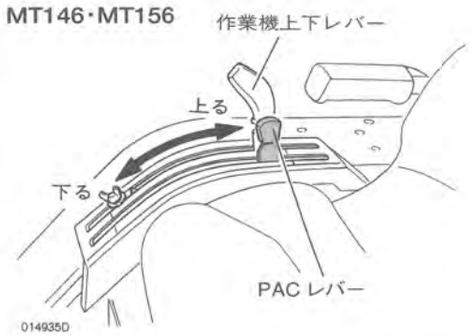
	爪軸変速	PTO 回転速度 r.p.m.	サイド爪軸 回転速度 r.p.m.	センタ爪軸 回転速度 r.p.m.
MT136	高	978	295	295
	低	633	191	191
MT146	高	1191	359	359
	中	771	233	233
	低	584	176	176
MT156	高	1191	359	359
	中	771	233	233
	低	584	176	176

②ロータリーの上げ・下げは、作業機上下レバーで行ってください。

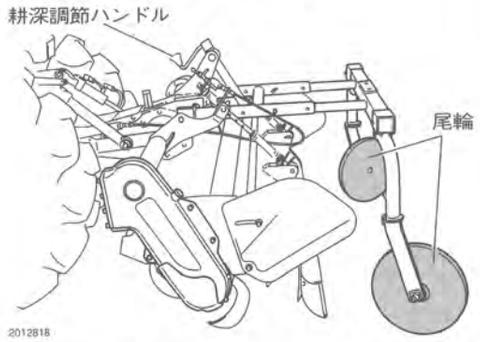
MT136



MT146・MT156



③耕深の調節は、耕深調節ハンドル、またはPACレバーで行います。



【取扱いの注意】

- ロータリー装着時の移動走行では、耕うん（PTO）変速レバーを中立にし、ロータリーを上げ、移動してください。
- 後退するときや、旋回するときは、必ずロータリーを上げてから行ってください。
- あぜ越えなどを行う場合は、爪軸の回転を止めて、作業機上下レバーを「下」位置にしたままのぼり、のぼりきったらロータリーを上げてください。また、あぜが高い場合は、後進の低速で行ってください。
- ロータリーなどの作業機を装着して走行する場合、トラクター前部が軽くなるのでハンドル操作に注意してください。

PAC ロータリー MT146・MT156 のみ

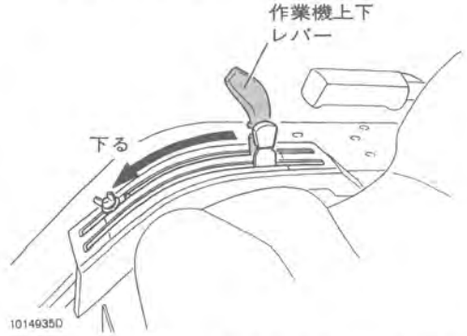
JUST マチック仕様は、「JUST マチック仕様について」(62 ページ) を参照してください。

PAC ロータリーは、凸凹の多いほ場でも、耕深が一定になる機能です。

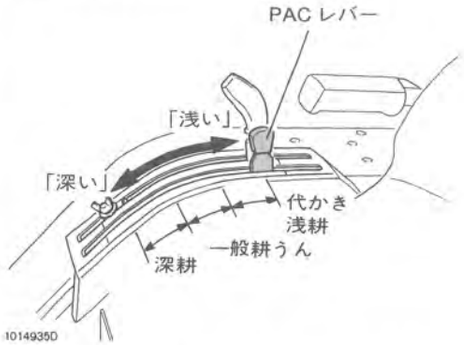
一般耕うん、代かき、ハロー、ディスクロータリー作業などに効果を発揮します。

次の要領で耕深を設定してください。

①作業機上下レバーを「下」位置（最下げ）にしてください。



②PAC レバーで、下図を参考にして耕深を設定してください。



※目盛は深さを合わせるための目安です。同じ目盛でも、ほ場条件により深さが変わります。

③作業機上下レバーで、作業機の上下を行います。

④耕うん作業を始めて、実際の耕深を見ながら希望の耕深に、PAC レバーで調節します。



※ハンガーロッドのピン穴位置は一番上に取り付けてください。

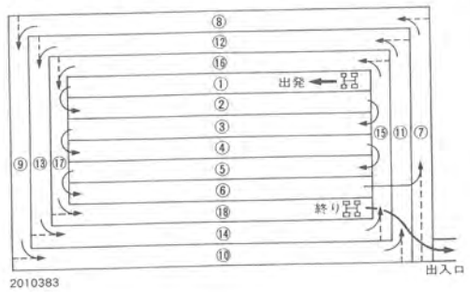
13. ロータリー耕うんのしかた

①前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。
②作業条件により、車速およびPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。
③耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリー耕うんは隣接耕が標準です。
④いずれの耕法による場合でも、トラクターの旋回ができるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を3行程弱残します)
⑤耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。
⑥サイドドライブロータリーは、右サイドフレーム側があぜぎわによるようにして、耕うんすると残耕が少なくなります。

〈隣接耕うんの順序〉

- 一般的なロータリー耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、一度耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクターが最後に外へ出る場所によって決まります。

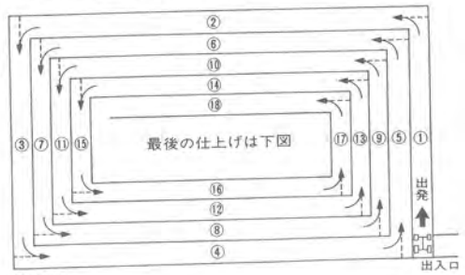
←― 進行方向 ←----- いったんバック



2010383

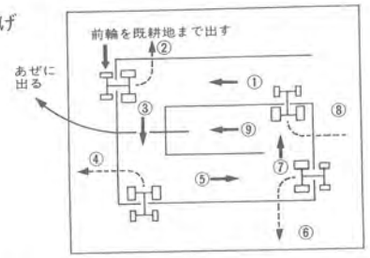
〈回り耕うんの順序〉

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクターが最後に出る場所は、あぜに近い所から出てください。



2010384

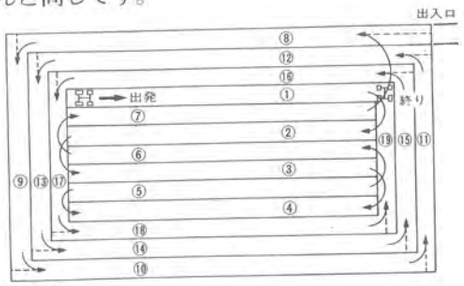
最後の仕上げ



2010585

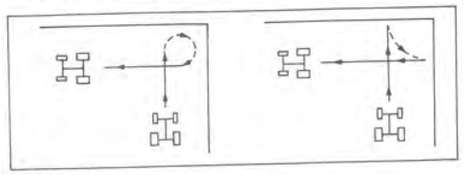
〈一うね置き耕うんの手順〉

一うね置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



2010386

〈トラクターの方向転換〉


2010387

14. デフロックの使いかた

⚠警告

- かならずデフロックを解除して旋回してください。守らないと、思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- 路上走行中は、絶対にデフロックを使用しないでください。守らないと、走行が不安定になり事故をおこすおそれがあります。

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。
湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。



1017112A

【取扱いの注意】

- デフロックペダルを踏むときは、エンジン回転を下げてから行ってください。
- デフロックペダルから足を離してもデフロックが解除されないときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

15. トラックへの積込み・積降ろしのしかた

⚠危険

- トラックへの積込み・積降ろしは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。守らないと、転落などの事故をおこすおそれがあります。

⚠警告

- トラックへの積込み・積降ろしは、平坦で交通の安全な場所で、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。
- 使用するあゆみ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップしないものを選び、あゆみ板がはずれないように、フックをトラックの荷台にしっかりかけてください
- トラックへの積込みは後進で行ってください。
- トラックにのせて移動するときは、強度の十分あるロープでトラックにトラクターを固定してください。

守らないと、トラクターが転落するなど、事故をおこすおそれがあります。

〈積込み〉

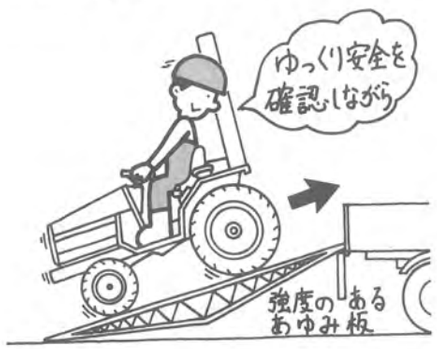
①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。

②ブレーキペダルは必ず連結してください。

③能率変速レバーを「低」位置、または副変速レバーを「1」位置に変速し、主変速レバーを「後進」位置でエンジン回転を低速にして積込んでください。

④途中でエンジンがストップした場合は、一旦下まで降りてエンジンを再スタートしてください。

⑤積込みが終了したら、メインスイッチのキーを外して駐車ブレーキをかけ、ロープで本機を確実に固定してください。



〈積降し〉

①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。

②ブレーキペダルは必ず連結してください。

③MT136では主変速レバーは「1・2」位置に、能率変速レバーは「低」位置に変速し、MT146･156では主変速レバーは「低」位置に、副変速レバーは「1」位置に変速してください。

④エンジン回転を低速にして積降ししてください。

⑤あゆみ板の上では、絶対にクラッチペダルを踏まないでください。エンジンブレーキがきかなくなり転落などの事故をまねくおそれがあります。

16. 後輪車輪幅（輪距）の調節のしかた

⚠警告

- **作業中、車体が転倒しないように、支持台は硬くて強いものを使用してください。守らないと、トラクターが転倒して事故を起こすおそれがあります。**
- **後輪と六角車軸の２本の固定ボルトはしっかり締めてください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。**

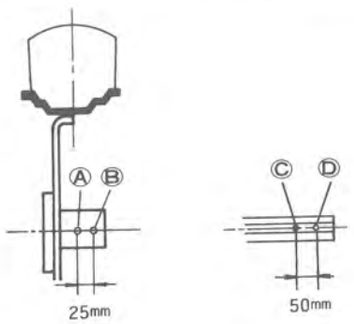
締付トルク	15～19kgf･m

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラクターの車輪幅を調節してください。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

①駐車ブレーキをかけ前輪に車止めをした後、ジャッキを使って車体を上げ、ファイナルケースに支持台をかませて、後輪を浮かせてください。

②調節は、六角車軸上をスライドさせ穴に平頭ピンを取り付け、ボルト２本で固定します。

	MT136	MT145	MT156	平頭ピン取付け穴位置
トレッド	700 mm	750 mm	800 mm	ⓒ Ⓑ
	750 mm	800 mm	850 mm	ⓒ Ⓐ
	800 mm	850 mm	900 mm	Ⓓ Ⓑ



17. 油圧外部の取り出しかた

⚠注意

- **油圧取出口のプラグを外したり、配管の取り付け、取り外しを行うときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと、高圧オイルにより傷害事故を起こすおそれがあります。**

〈単動式の場合〉

ダンプトレーラなど単動式シリンダを使用する場合

①シリンダ左横の六角プラグPF3/8を外し、作業機側の油圧ホースを取りつけてください。

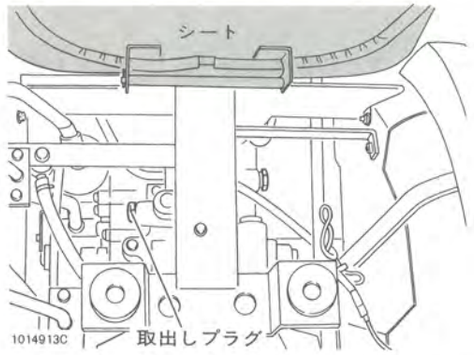
②油圧ストップ・スローリターンバルブを「閉」方向にいっぱい締めます。締めないと、本機の油圧リフトに圧油が流れ、外部油圧がうまく作動しない場合があります。

③作業機上下レバーを操作して、作業機を動かします。

〈複動式の場合〉

①MT146･156のUFO仕様以外では、オプション（別売り）の外部油圧取り出しカバーが必要となります。

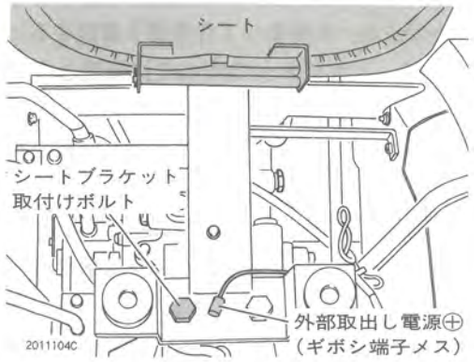
②詳しい取り付け方、使い方については、販売店または農協にご相談ください。



※油圧作業機の詳しい取り付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

18. 外部電源取出端子について

ワークランプや作業機への外部電源取り出しに使用します。



【取扱いの注意】

- **アース⊖端子は、シートブラケット取付ボルトと共締めするなどして、確実に固定してください。**
- **端子のプラス・マイナスを間違えたり、過負荷電流で使用しますと、(最大：12V 5A) ヒューズが切れます。ヒューズの交換は、ヒューズボックス内で行います。**
  (82ページ参照)

19 作業機の取り扱いについての注意事項

⚠警告

- トラクターを移動して作業機を着脱するときは、トラクターの周辺や作業機との間に人が入らないようにしてください。
  守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 作業機の着脱は、平坦で安定した場所で、行ってください。夜間は、適切な照明をしてください。
- 重い作業機を装着した場合には、フロントにバランスウエイトをつけて、バランスを保ってください。
- 作業機を調整する場合は、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、耕うん（PTO）変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行ってください。
- けん引作業をするときは、かならずけん引ヒッチ（別売）を使用し、それ以外で引っ張らないようにしてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距（左右のタイヤの間の幅）を広くして使用してください。
- 作業機によっては、かなりの長さになりますので、旋回時は周囲の人や物に注意してください。
- バランスウエイト代りに人や物を乗せないでください。作業機に合った純正のバランスウエイトを使用してください。
- フロントローダー作業時は、後方に作業機をつけるなどして前後バランスを保ってください。
- 装着する作業機の取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。

守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- PTO軸を使用しないときは、PTO軸の安全カバーをかならず取り付けてください。守らないと、巻き込まれたりして、ケガを負うおそれがあります。
- 作業機指定のPTO回転速度を厳守してください。守らないと、作業機がこわれ、事故をおこすおそれがあります。

20. 折りたたみ式安全フレームの使いかた

⚠警告

- 安全フレームを折りたたんだ状態では、絶対にシートベルトを着用しないでください。折りたたみ式安全フレームは、折りたたんだ状態では、安全フレームの役目をしません。
- トラクターを運転するときには、必ず安全フレームを立ててください。また、必ずシートベルトを着用してください。
- 作業中は、絶対に安全フレームを折りたたまないでください。
- 安全フレームの改造をしないでください。安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
- トラクターを使用する前に、必ず安全フレームがピンによってロックされているか確認してください。
- 安全フレームが損傷したときは、安全フレーム一式を交換してください。修理すると安全フレームとしての機能をはたさなくなります。
  守らないと、転落、転倒事故のとき、死亡または重傷のおそれがあります。

安全フレームは、万一の事故のとき人身事故を防ぐのに非常に効果があります。
トラクター運転中は、必ず安全フレームを立てて安全運転に心がけてください。

安全フレームの折りたたみかた

①ノブを回して押え板とフレームの間に隙間を持たせてください。
②トラクター左右のピンを手前に引き、ピンを約1/4回転回して安全フレームのロックを解除します。
③安全フレームを少し倒します。
④ピンを元の状態に戻します。
⑤もう一度安全フレームを倒すと、ピンがロックされます。
※ピンのロックが不確実な場合は、安全フレームを少し揺すってピンを確実にロックしてください。



安全フレームの立てかた

①トラクター左右のピンを手前に引き、ピンを約1/4回転回して安全フレームのロックを解除します。
②安全フレームを少し持ち上げます。
③ピンを元の状態に戻します。
④もう一度安全フレームを倒すと、ピンがロックされます。
※ピンのロックが不確実な場合は、安全フレームを少し揺すってピンを確実にロックしてください。
⑤ノブを回して押え板とフレームを固定します。

JUST マチック仕様について（J 仕様のみ）

1.各部のなまえとはたらき

通常作業に必要なもの

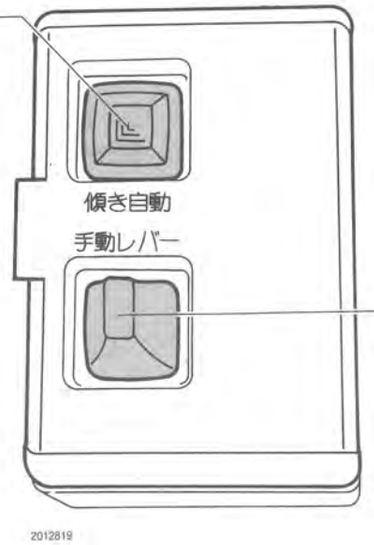
傾き自動スイッチ

- 「傾き自動」で使用する場合
  傾き自動スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にし、傾き設定ダイヤルで作業機を任意の角度に設定すると、トラクターの傾きにかかわらず、作業機を地面に対して一定の角度に保つことができます。

※作業機を最上昇位置にすると、作業機はトラクターと平行になり、傾き設定ダイヤルは働きません。

- 「傾き手動」で使用する場合
  傾き自動スイッチを押して「切」（ランプ消灯）にし、手動レバーで作業機を任意の角度に設定すると、トラクターに対して一定の角度に保つことができます。設定操作中に、作業機がトラクターに対して平行位置を通過する場合は、平行位置でいったん停止します。

※作業機を最上昇位置にしても設定された角度を保ちます。



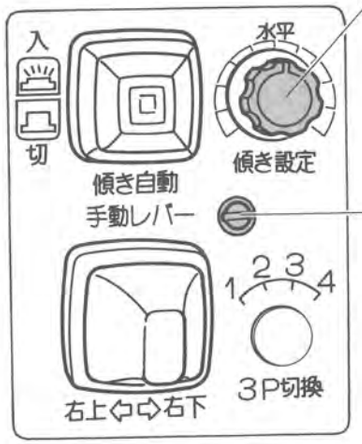
2012819

手動レバー

- 「傾き手動」で使用する場合
  トラクターに対する作業機の角度を任意に設定できます。
- 「傾き自動」で使用する場合
  手動レバーを動かしている間だけ、作業機の角度が変わります。手を離すと傾き設定ダイヤルで設定された角度に戻ります。

特定の作業に使うもの

作業条件を設定する必要のある場合は、カバーを開けて調節してください。



2012835

傾き設定ダイヤル

「傾き自動」のときに、地面に対する作業機の角度を設定することができます。

※「傾き自動」のときは、作業機を最上昇位置にすると傾き設定ダイヤルが働きません。

微調整スクリュー

作業機を上げたときの本機との平行の微調節を行います。

【取扱いの注意】

- 工場出荷時に、調整を行ってありますので、調整がくるった場合を除いて触らないでください。

2.基本的な使いかた

路上走行のとき

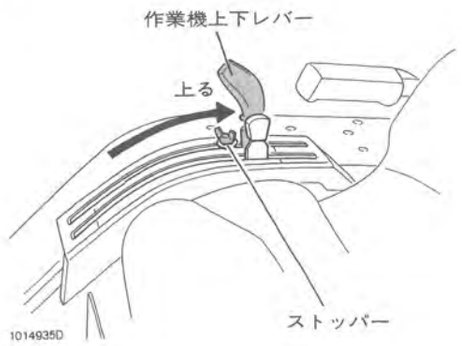
⚠注意

- **作業機降下速度調節グリップは開いたままで、作業機上下レバーを「上る」位置にして、ストッパーをセットして走行してください。守らないと、作業機が下がり、事故をひきおこすおそれがあります。**

路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行ってください。
傾き自動スイッチが点灯している場合は、傾き自動スイッチを押して、「切」（ランプ消灯・手動）にしてください。



2010554



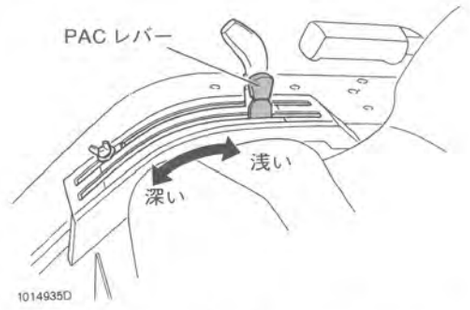
1014935D

ロータリー作業

JUST マチック操作ボックスの傾き自動スイッチが消灯しているときは、傾き自動スイッチを押して、「入」（ランプ点灯）にしてください。



実際の耕深を見ながら、希望の耕深でないときは、PAC レバーで耕深を調節してください。



1014935D

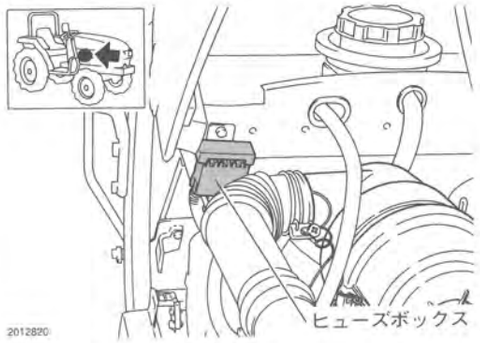
3. センサ異常時の表示について

センサに異常が発生した場合は、JUST マチック操作ボックスの傾き自動スイッチが点滅します。この場合は、正常作業が行えなくなりますので、販売店までご連絡ください。



4.ヒューズについて

ハーネスのショートなどにより JUST マチック関係のヒューズが切れた場合は、故障箇所を修理した後、ヒューズボックス内の 10A ヒューズ（左から 2 番目）を交換してください。



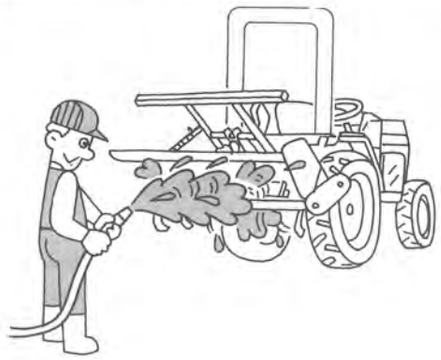
2012820

ヒューズ

15A	ヘッドランプ	ホーン　他
10A	方向指示器	—
10A	予熱ランプ	水平制御電源（オプション）
5A	警告ランプ	燃料計

5.使用後の手入れ

使用後洗車する場合（特に高圧洗車）は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサ類および電装品への直接放水はさけてください。



2010537

長期間保管の場合は、必ずメインスイッチを「**停止**」にしてからキーを抜いて保管してください。



1014916D

作業後の手入れについて

正しい手入れを行ってください。

1.作業後の手入れ

⚠危険

- **機体カバーをかける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラが十分冷えたことを確認してからかけてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。**

その日の内にトラクターを水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各グリスアップおよび注油を行ってください。

【取扱いの注意】

- **電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。**



2010388

2.長期間使用しない場合の手入れ

⚠警告

- **格納する場合は、バッテリを取り外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

⚠注意

- **格納する場合は、クラッチペダルをロックしてください。守らないと、クラッチがきれなくなり事故をおこすおそれがあります。**

トラクターを長期間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

①長期間保管の場合は、必ずメインスイッチを「**停止**」にしておいてください。

②乾燥した風通しの良い所で、ウエイトなどは取り外し、ロータリーも取り外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



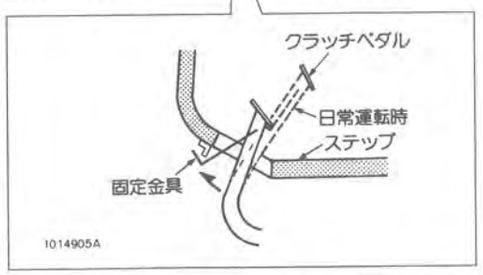
2010586

③外部の錆やすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

④燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。燃料コックは「**C**」(閉の状態) にしてください。

⑤バッテリを完全充電し、なるべく本機から取り外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取り付けたまま保管するときは、必ずアース側（一側）を外してください。
⑥冷却水を抜き取ってください。
⑦エアクリーナー・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
⑧クラッチは、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏み込んだ状態でクラッチペダルをかけてください。





⑨前・後輪タイヤとも、正規の空気圧にしてください。(83ページ参照)

【取扱いの注意】

- **バッテリは、使わなくても自然放電します。1ヵ月に1度は充電器で完全充電してください。(78ページ参照)**

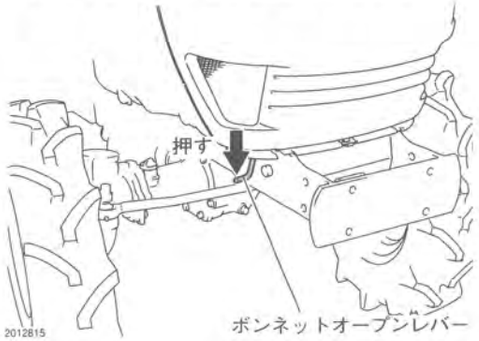
長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



3. ボンネットの開閉のしかた

ボンネットの開閉のしかた

①ボンネットオープンレバーを下へ押すと、ボンネットのロックが解除されます。
②両手でボンネットをスタンドがロックされるまで持ち上げて、ストッパが確実にロックしているか確認してください。



③ボンネットを閉じる場合は、ボンネットを持ち上げて、ロックを解除し、前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押してください。
④ボンネットを閉めた後、上に持ち上げてボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

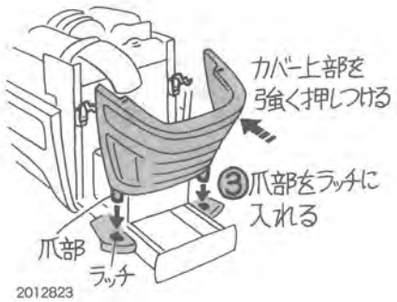


4. フロントグリル・サイドカバーの取り外し・取り付けかた

フロントグリルの取り外し・取り付けかた

①ボンネットを開けます。
②フロントグリルの上部を引くとカバーが外れます。
③取り付けはカバー下部の爪部をラッチに入れ、カバー上部を強く押し付けてください。





サイドカバーの取り外し・取り付けかた

①ボンネットを開けます。
②エンジンサイドカバーの上部を引くと、カバーが外れます。
③取り付けは、カバー下部の爪部をラッチに入れ、カバー上部を強く押しつけてください。





定期の点検・調整について

⚠警告

- 点検・整備は、交通の危険がなく、トラクターが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- １年毎に定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料パイプは２年毎に交換してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
- 点検・整備・修理をするときは、かならずエンジンを停止してください。
- 点検・整備などで取り外したカバー類は、かならず取り付けてください。
  守らないと、機械に巻き込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

定期点検や整備は、農閉期に行い農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、１年ごとに販売店・整備工場で定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。特に燃料パイプや、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は２年ごとに交換するにようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

1.定期点検一覧表

実施項目 ＼ アワメータ表示時間	20～30時間目	50時間目	100時間目	150時間目	200時間目	250時間目	300時間目	350時間目	400時間目	450時間目	500時間目	550時間目	600時間目	参照ページ
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	80
バッテリ液量点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	78
エアクリーナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	77
ミッションオイル点検(交換)	○	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	73
フロントアクスルオイルの点検(交換)	○	交換	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	○	交換	73
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	79
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
電気配線の点検※1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	79
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○	○		○		○		○		○		○	
冷却ファンベルトの点検	○	○	○		○		○		○		○		○	82
エンジン潤滑油交換・点検	○	交換	交換	○	交換	○	交換	○	交換	○	交換	○	交換	72
バッテリ液比重点検および補充電			○		○		○		○		○		○	78
ステアリング各部締付点検	○		○		○		○		○		○		○	
燃料コシ器の洗浄(交換)			○		○		交換		○		○		交換	75
ラジエータ内部の掃除			○		○		○		○		○		○	77
ミッションオイルコシ器洗浄(交換)		○					○						交換	73
燃料パイプ・電気配線の交換	2年毎に交換													
ラジエータホースの点検・交換	2年毎に交換													79
エンジンオイルコシ器の交換		交換					交換						交換	74
エンジンクランクケースの洗浄													○	
吸排気弁間隙の点検													○	
燃料噴射弁の点検													○	
発電機、始動電動機の点検											○			
油圧装置の点検											○			

※1 50時間毎に点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年毎に行なってください。
※2 交換の必要なものは、使用時間に達してなくても2年毎に交換してください。

2.燃料・油脂不凍液一覧表

燃料油	ディーゼル軽油 JIS 2号または3号軽油を使用してください。		
エンジンオイル（新SAE、CC級）（JIS K2216 2種 DG または DM）	純正油	マルチSTOUオイル（10W-30）	その他一流メーカのオイルでAPIサービス分類CC、CD級オイルをお使いください。
	全農	クミアイエンジンオイル（ディーゼル用）	
	三菱石油	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル 油圧兼用（APIサービス分類GL-4級以上のオイルで湿式ブレーキ適正のあるもの。）	純正油	マルチGBオイル	(80W)
		マルチSTOUオイル	(10W-30)
	三菱石油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	(80W)
		ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	(10W-30)
	全農	クミアイトラクタオイル	(80W)
不凍液（JIS K2234 2種 パーマネントタイプ）	ロングライフクーラント		工場出荷時は34％混合（-15℃基準）としております。

3.給油・給水一覧表

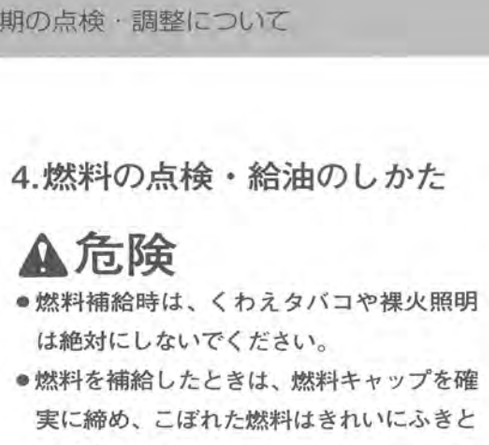
給油・給脂箇所		容量	種類
燃料		13 ℓ	ディーゼル軽油
冷却水	ラジエータ	4.0 ℓ	清水・不凍液
	サブタンク	0.4 ℓ	清水・不凍液
エンジンオイル		2.9 ℓ	
ミッションオイル		7.0 ℓ	
フロントアクスルオイル		2.4 ℓ	ギヤオイル #90

4.燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

- **燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。**
- **燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。**
- **エンジン回転や、エンジンが熱い間は、絶対に給油はしないでください。**
  守らないと、火災をおこすおそれがあります。

メインスイッチを「運転」位置にして、燃料計が補給位置を指示したら、燃料キャップを外して給油口より補給してください。
なお、ボンネットを開け、燃料もれのないことも調べてください。



【取扱い注意】

- **給油するときは、フィルターを使用してください。**

5.各部オイルの点検・交換のしかた

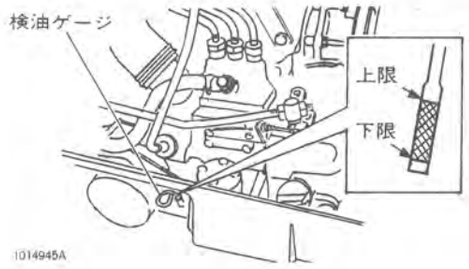
⚠危険

- **エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油はしないでください。守らないと、火災やヤケドをおこすおそれがあります。**

エンジンオイル

点検

エンジン部右側オイルフィルター横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。なお、油もれのないことも調べてください。



【取扱い注意】

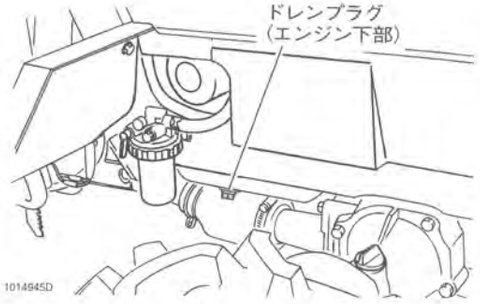
- **オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。**

交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。
エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわけることが大切です。

廃油の処置

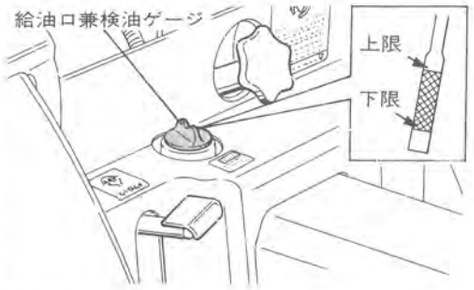
交換したオイル（廃油）は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。



ミッションオイル

点検

運転席下の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。なお、油もれのないことも確認してください。



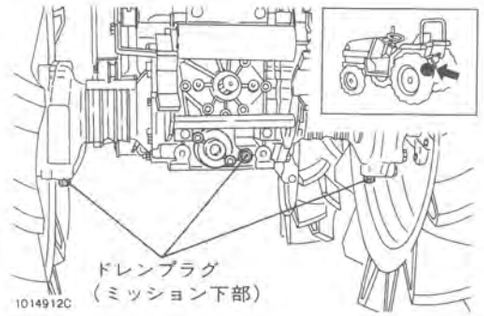
交換

ミッションケース左下と、リヤアクスルケース下部のドレンプラグ左右から排油してください。
オイルを抜くときは、ミッションが暖かい内に抜くときれいに抜けます。給油はセンタープレート上部の給油口から入れてください。

※ミッションオイルは、油圧オイル、パワステオイルと併用しています。
※ミッションオイルは、必ず純正TF500トランスミッションフルードを使用してください。

廃油の処置

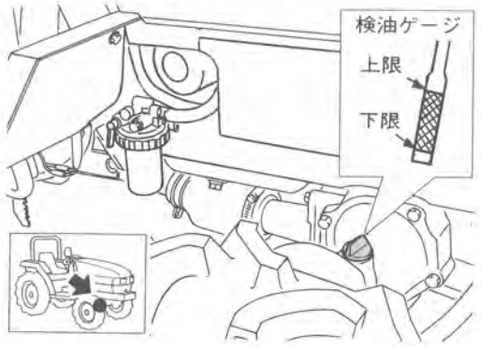
交換したオイル（廃油）は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。



フロントアクスルオイル

点検

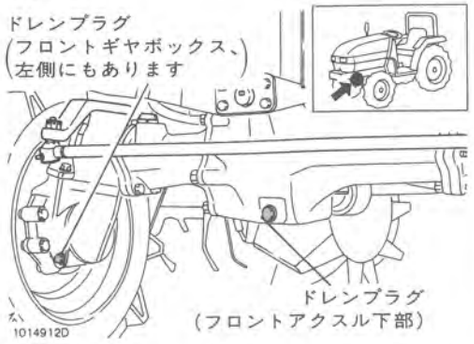
フロントアクスル右側上部の給油口のふたを外してゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。



交換

フロントアクスル下部の左右ドレンプラグとセンタードレンプラグの3箇所から排油してください。

給油はフロントアクスル右側上部からしてください。



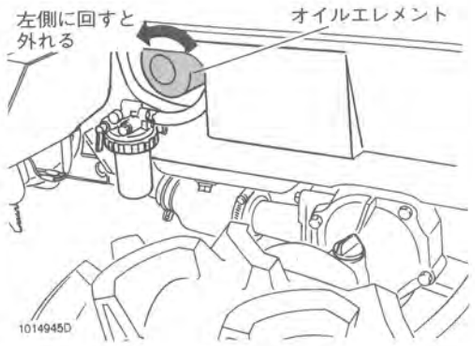
廃油の処置

交換したオイル（廃油）は、絶対に川や下水道に流したりせずに、専門の業者に引き取ってもらうなどの適切な方法で処分してください。

6. 各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

100時間毎にエレメントを取替えてください。



交換

①エンジンオイルを抜き取ったあと、エレメントをフィルタレンチで左側に回して外します。

②新しいエレメントの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、フィルタレンチで確実に取り付けてください。

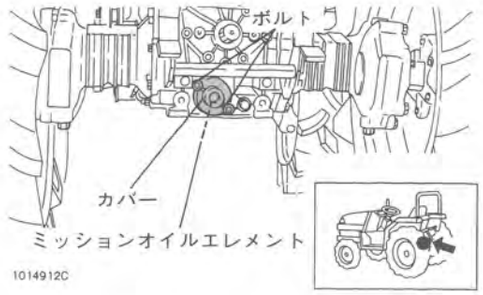
③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。

※30秒以上回しても、パイロットランプが消えない場合には、油圧スイッチの不良が考えられます。

④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば補給します。

ミッションオイル エレメント

オイルエレメントは、スクリーンタイプになっています。



清掃

①ミッションオイルを抜き取ったあと、ボルト2本をとってカバーを外してください。

②中にエレメント（スクリーン）がありますので、手で抜いてください。

③軽油または、灯油の中できれいにゴミを取り除いてください。

④組み付け時、カバーのOリングにグリスを塗布して、確実に取り付けてください。

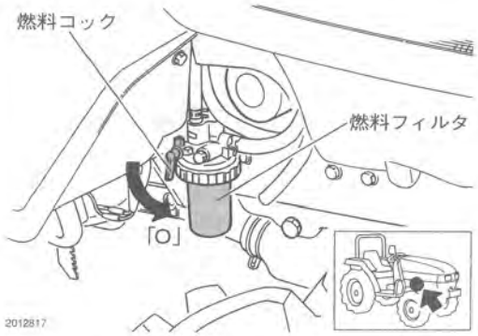
燃料フィルタエレメントの清掃・交換

①燃料コックを「C」(閉の状態) 位置にします。

②リテーリングナットを回してカップを外し、カップ内の水・ゴミを取り除きます。

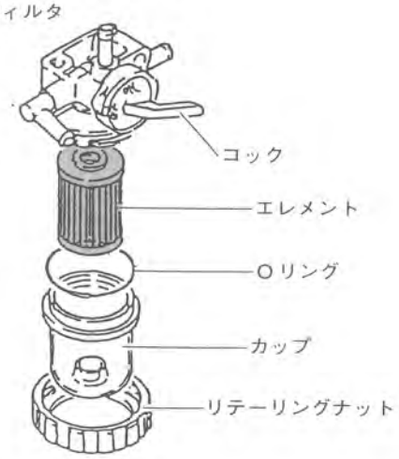
③エレメントを取外し、きれいな軽油で洗浄または、交換します。

④フィルタの洗浄が終ったら元通りに取り付け、燃料コックを「O」(開の状態) 位置にし、燃料エア抜きを行います。(燃料のエア抜きのしかたは77ページを参照してください。)



④フィルタ内のエレメントは、300時間ごとに交換してください。

燃料フィルタ



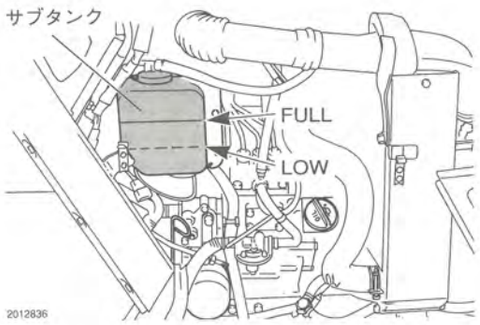
7.冷却水の点検・交換のしかた

⚠危険

- **ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジンが停止してエンジンが冷えてから開けてください。守らないと、熱湯が吹き出し、ヤケドを負うおそれがあります。**

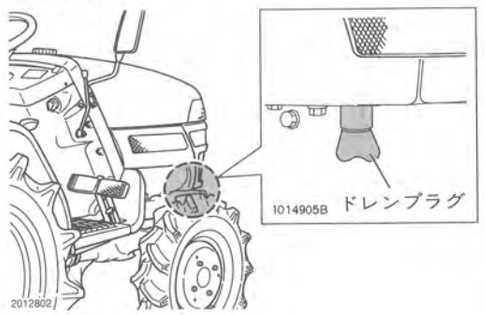
点検

ボンネットおよび、エンジンサイドカバー（右側）を開け、サブタンク内の水が「FULL」から「LOW」の範囲にあるか調べてください。不足しているときは、サブタンクの給水口より、必要な濃度にした不凍液を補給してください。なお、水もれがないことも調べてください。



交換

①ラジエータキャップを外し、ドレンプラグをゆるめて、ラジエータ内の水を全て抜きます。



②水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ部を洗います。

※ラジエータ洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいっそうきれいになります。

③ドレンプラグを取り付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

④ラジエータキャップを取り付け、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。

〈不凍液の取り扱いについて〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などにおいては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷時の不凍液混合比率は、外気温度－15℃としております。

不凍液混合比率表

外気温度（℃）		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水（%）	82	73	66	61	55	49
	不凍液（%）	18	27	34	39	45	51

※新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。

※混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。

※冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。（セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。）

※不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

8.燃料の空気（エア）抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき、または、点検整備で燃料フィルタエレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気（エア）抜きをしてください。

①燃料タンクに燃料を補給します。

②燃料コックを「O」（開の状態）位置にします。



③燃料噴射ポンプスクリューをゆるめ流れ出る燃料に空気（エア）が混入しなくなったらスクリューを締めます。

④ゆるめたスクリューが確実に締めてあるか確認します。以上でエア抜きは完了です。

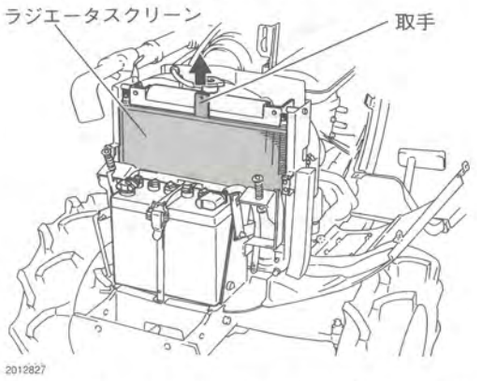
⑤アクセルレバーを**「はやい」**方向へいっぱいに引き、メインスイッチを**「始動」**位置にしてスタータを回し、エンジンを始動してください。エンジンの始動のしかたは、45ページを参照してください。



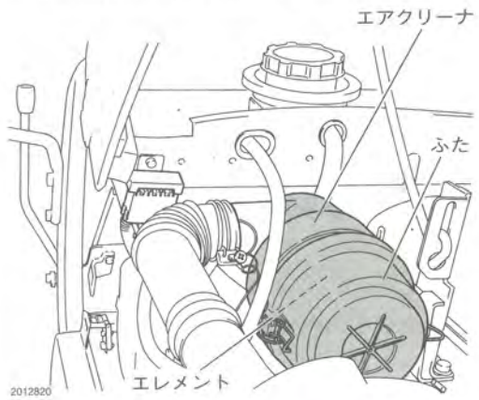
9.ラジエータスクリーンとエアクリーナーエレメントの掃除・交換のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。ホコリの多い所で作業するときは、50時間ごとに掃除・400時間ごとに交換してください。普通の所でも100時間ごとに掃除・1000時間ごとに交換してください。規定時間になっていなくても、1年間でエレメントを交換してください。

〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉
ラジエータスクリーンを上方向に引き出してください。
ワラクズやホコリを取り除いてください。
作業前、作業後に掃除してください。



〈エアクリーナーエレメントの掃除のしかた〉
ふたを取り外し、中のエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フィンに傷を付けないよう気をつけてください。

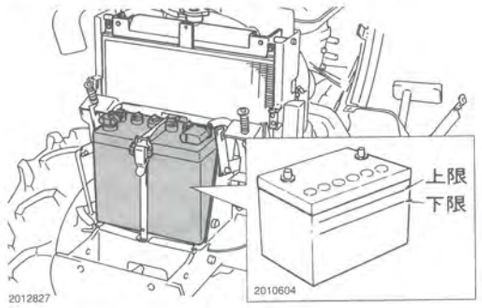


10. バッテリの点検のしかた

⚠危険

- バッテリの点検時・充電時、火気厳禁です。守らないと、引火爆発し、ヤケドを負うおそれがあります。
- バッテリ液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。守らないと、ヤケドや、服が破れるおそれがあります。

バッテリの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



⚠注意

- バッテリの取り外しはケーブルの⊖側を先に取り外し、取り付けるときはケーブルの⊕側から取り付けてください。
守らないと、ショートしてヤケドを負うおそれがあります。

【取扱いの注意】

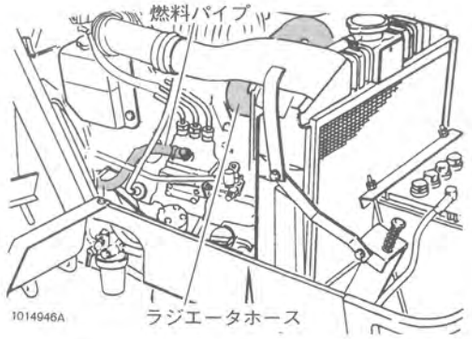
- バッテリ各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、トラクターの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は避けてください。
- バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。
- 環境保全と資源のリサイクルのため、交換した古いバッテリは、放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリを購入した店へ渡してください。資源としてリサイクルされます。

11. パイプ類の点検について

⚠危険

- 燃料パイプが破損していると、燃料もれをおこしますのでかならず点検してください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

燃料パイプ、ラジエータホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでいなくても2年ごとに交換してください。



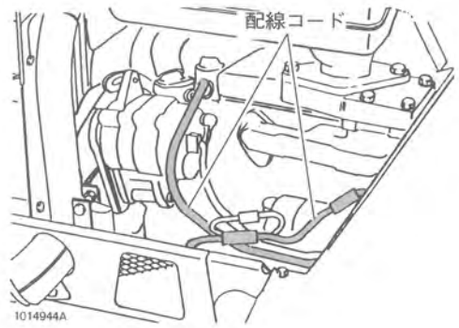
※燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。(77ページ参照)

12. 電気配線の点検について

⚠警告

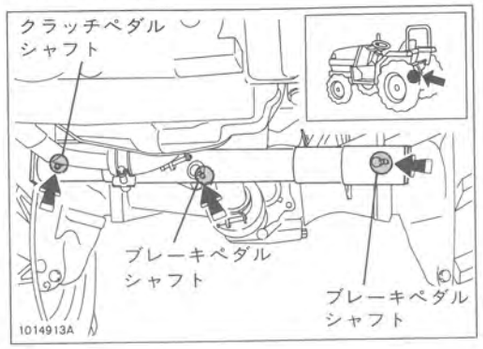
- 配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。
- バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取り除いてください。守らないと、ショートして火災をおこすおそれがあります。

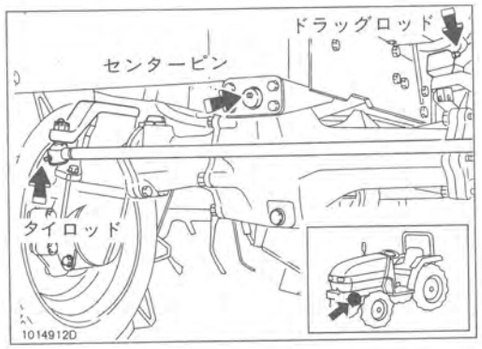
エンジンサイドカバーを外し、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接触部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で修理してください。
傷んでいなくても使用時間50時間ごと、または1年ごとに定期点検を受けてください。

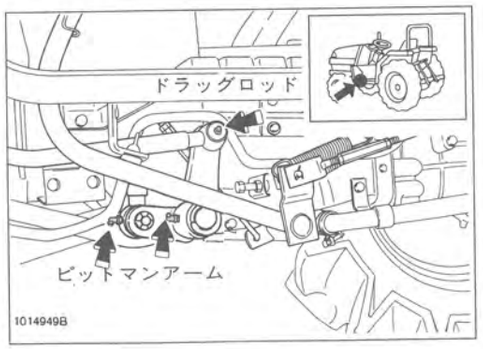


13. グリスアップ(注入)について

グリスアップは、50時間ごとに行っていただきますが、作業に入る前に各箇所のグリスの点検を行い、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業などで泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。





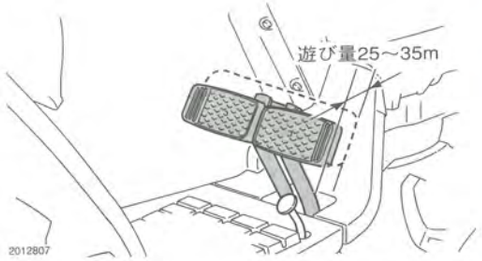


14. ブレーキの点検･調整について

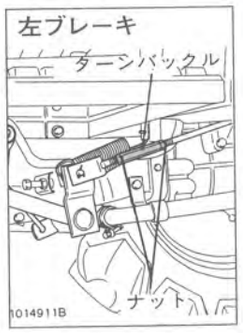
⚠警告

- **ブレーキのききが悪かったり、片ぎきがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**
- **左右のブレーキペダルの遊び量が異なると、ブレーキの片ぎきが生じます。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

ブレーキペダルを踏み込んで、規定の遊び量（25～35㎜）と左右が同時に効くかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、左右の遊び量が25～35㎜になるように、ブレーキペダル後方にあるターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。また、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだときに、駐車ブレーキレバーが確実にかかることを確認してください。

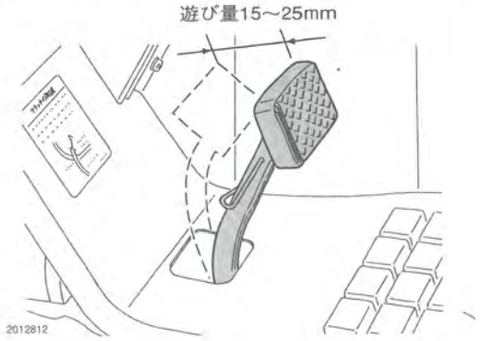


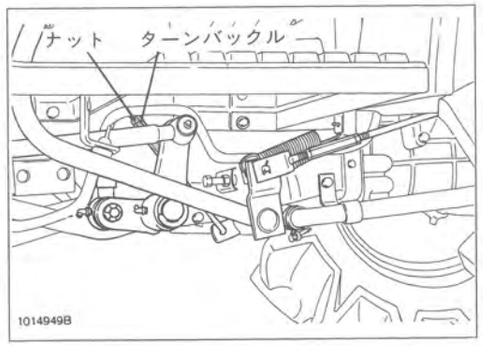




15. クラッチの点検･調整について

クラッチペダルを踏み込んで、規定の遊び量（15～25㎜）があるかを調べてください。規定の遊び量でない場合は、遊び量が15～25㎜になるように、ターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締め付けてください。



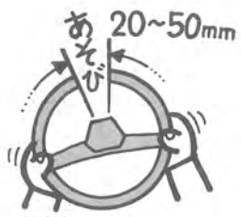


16. ハンドルの点検・調整について

⚠警告

- **ハンドルに著しいガタや遊びがないように、点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。**

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50㎜の範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でないとハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、農協で整備してください。

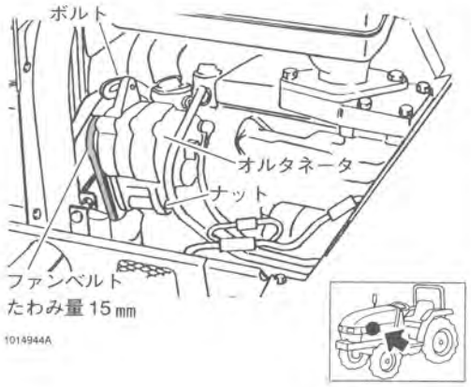


17. ファンベルトの点検・調整について

⚠注意

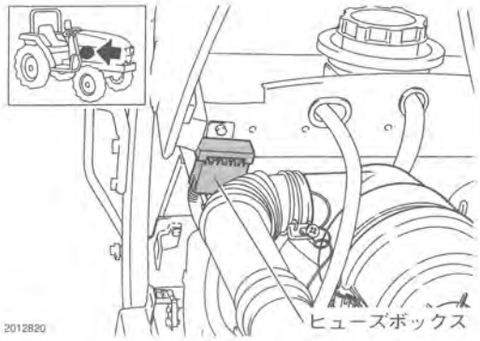
- **エンジンが十分冷えた状態で行ってください。守らないと、ヤケドを負うおそれがあります。**

ボンネットおよび、エンジンサイドカバーを開け、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15㎜あるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときはオルタネータ締付ボルトをゆるめ、オルタネータを移動させて張りを調節します。また、オルタネータをいっぱいに動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。



18. ヒューズ・ヒュージブルリンクの点検・交換について

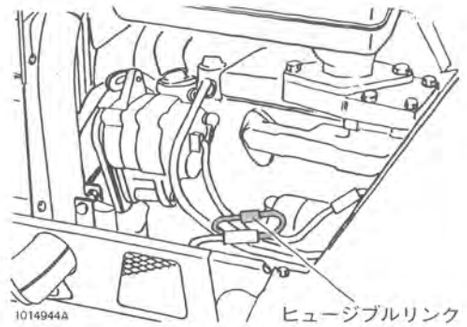
ヒューズボックスのふたを外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。



ヒューズ

5A		
10A	10A	15A
5A		
燃料計	警告ランプ	予熱ランプ	水平制御電源（オプション）	方向指示器	ヘッドランプ ホーン 他

また、エンジンを停止して、メインヒューズ（ヒュージブルリンク）を点検してください。ヒュージブルリンクはヒューズの一種で万一、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被（ビニール）が変色しますので、お買い上げいただいた販売店、または農協で点検を受けてください。



ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店または農協で点検を受けてください。

【取扱いの注意】

- **ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。**

19. タイヤの点検について

⚠警告

- **タイヤに空気を入れる際には、規定の最大空気圧以上に空気を入れないでください。守らないと、タイヤが破裂し、傷害事故をおこすおそれがあります。**

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

フロントウエイト・フロントローダなど前輪に荷重がかかるときは、前輪の空気圧を下表の最大圧でご使用ください。

タイヤ最大空気圧

	タイヤサイズ	空気圧kg/㎠	
		標準	最大
前輪	4.50-10	2.2	3.0
	5 -12	1.4	2.5
	5.00-12	1.2	2.5
後輪	7-16	1.0	1.6
	8-16		
	8-18	1.2	1.6



20. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色…エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店、または農協で整備してください。

1. 耕うん爪の取り付けかた

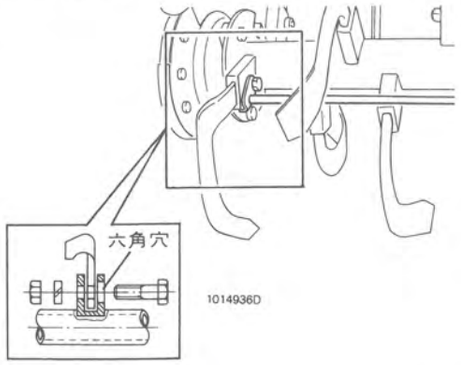
⚠注意

- 爪を取り付けるときは平坦で固い場所を選び、トラクターのエンジンを停止して駐車ブレーキをかけ、機体が動かないようにしてください。
- ロータリーの落下防止のため、作業機降下速度調節グリップを右に回して完全に締めてください。なお、安全のために爪軸に木の台などをしてください。

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

取り付けかた

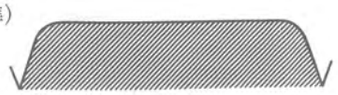
平面耕の場合、爪取り付け方向はブラケットの六角穴と逆方向の曲がりがくるようにして、17×19のメガレンチで確実にボルトを締め付けてください。



爪配列

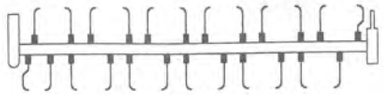
爪の配列は、作業に合わせてつぎの通り使いわけることができます。作業内容に合わせて選択してください。(※クロス部爪配列は爪ホルダー刻印に直爪を合わせてください。)

平面耕(標準)

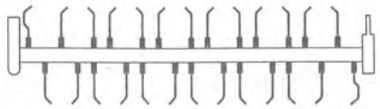


一般水田・畑・耕起作業、水田作かき、畑の細土・均平作業などに使用できます。

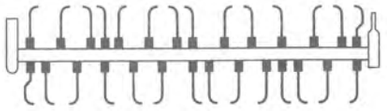
P106S



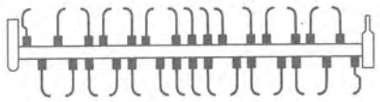
P116S



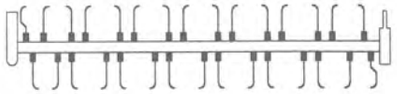
P126S



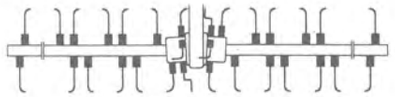
P136S



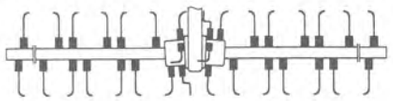
P156S



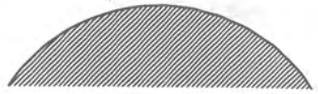
P096C・P116C



P126C

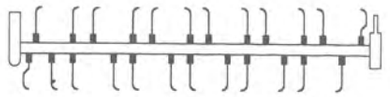


内盛耕

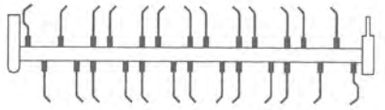


湿田耕起作業、幅広畦立時に使用できます。また、溝をまたいでの畦崩し作業もできます。

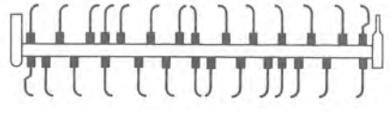
P106S



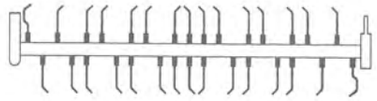
P116S



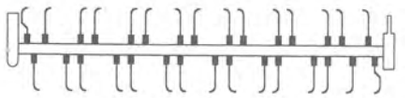
P126S



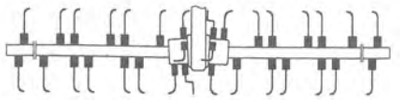
P136S



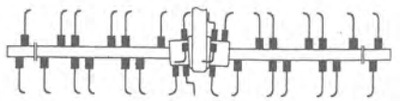
P156S



P096C・P116C



P126C

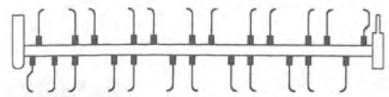


外盛耕

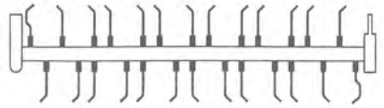


畦崩し、畦立作業に使用できます。

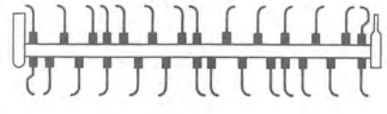
P106S



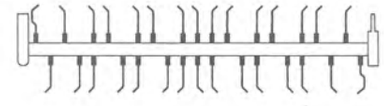
P116S



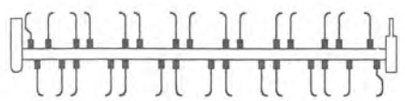
P126S



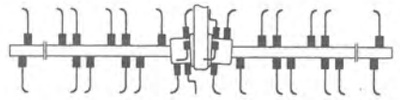
P136S



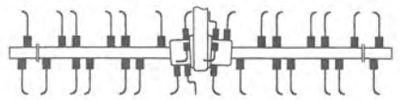
P156S



P096C・P116C



P126C

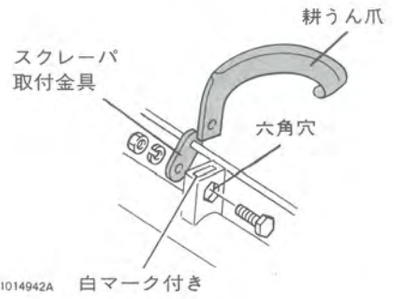


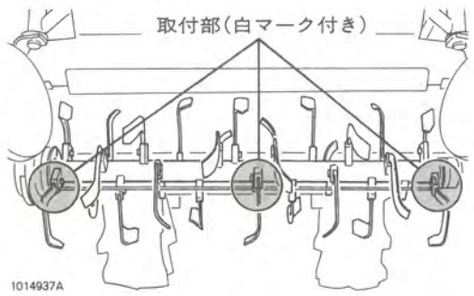
2. スクレーパの取り付けかた

荒起こしなどでワラをすき込むとき、ロータリー爪軸への草、ワラの巻きつきを軽減します。
爪軸が回転するとシャフトも同時に回転し、爪軸の見かけ上の径が大きくなり、草・ワラの巻きつきが少なくなります。

取り付けかた

ロータリーの爪取付部（白マーク付き3または4ヶ所）で、耕うん爪と「スクレーパ」の取付金具を共締めしてください。





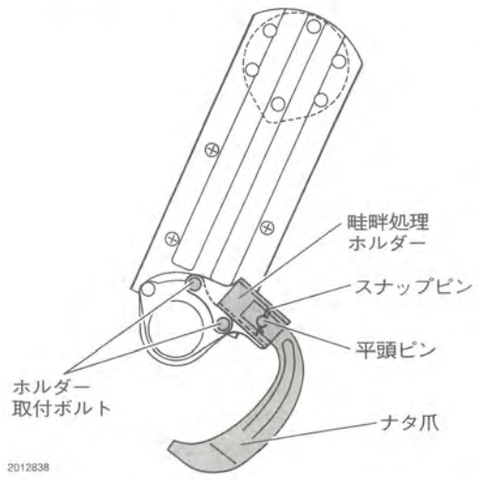
【取扱いの注意】

- 「スクレーパ」は3または4ヶ所でしっかり固定してください。守らないと、「スクレーパ」の脱落、またはカバーなどの破損のおそれがあります。

3. 畦畔処理金具の取り付けかた

耕作地の周囲のあぜ際を仕上げるときに、畦畔処理金具を使うと、残耕が少なく便利です。

- **あぜ際を仕上げるとき**
  平頭ピンとスナップピンで付属のナタ爪を取り付けてください。



- **隣接耕時**
  ナタ爪を外し、泥づまり防止板を取り付けてください。



ロータリーについて ― 正しい使い方と点検を行ってください。

4. ロータリーの取り外し・取り付けかた

⚠警告

- **作業機の着脱は、平坦な場所で行ってください。とくに夜間の作業機の着脱は明るい照明を用いるなど、安全に留意して行ってください。**
- **ロータリーに重い作業機を連結、または装着した場合には、トラクターにバランスウエイトを付け、バランスの良い状態を保ってください。**
- **作業機を調整する場合には、トラクターの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、さらにPTO変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行ってください。**
- **作業機の下へもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。作業機が下がると危険です。**

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

- **ロータリーの着脱時は尾輪を利用して調節ハンドルでロータリーの安定を保ってください。**
- **単体保管する場合は、ロータリー前側にささえ台を入れて、ロータリーが前へ倒されないようにしてください。**
- **PTO軸を使用しないときは、PTOカバーを取り付けてください。**

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

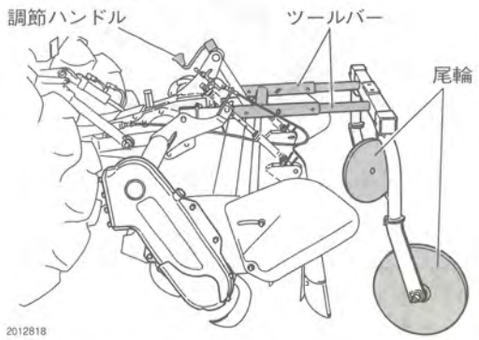
取り外しかた

①エンジンを始動し、平坦で、固い場所を選んで、ロータリーを作業機上下レバーで上げます。



②エンジンを停止します。

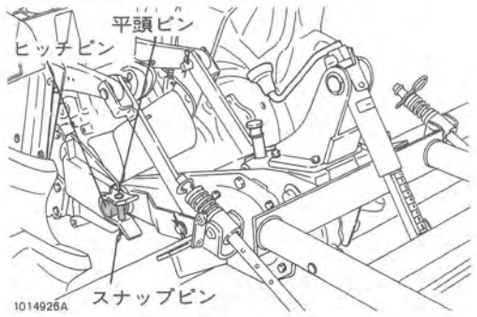
③ツールバーをいちばん引き出した位置にセットします。



④PACワイヤーを取り外します。
（PAC仕様のみ）

※PACワイヤーの取り外しかたは90ページを参照してください。

⑤ヒッチピン固定用スナップピン・平頭ピンを抜きます。



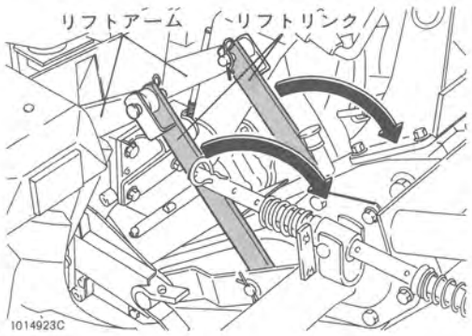
⑥作業機上下レバーで、ロータリーを地面に接地するまで降ろします。



⑦左右のリフトリンクを取り外します。

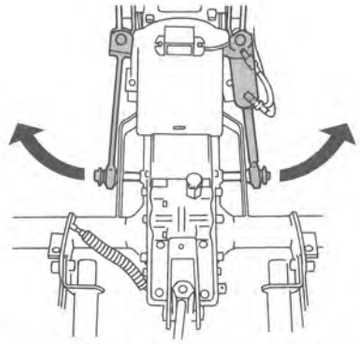
〈標準仕様〉

リフトアームより取り外します。

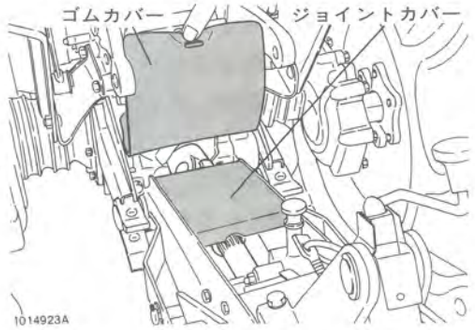


〈JUST マチック仕様〉

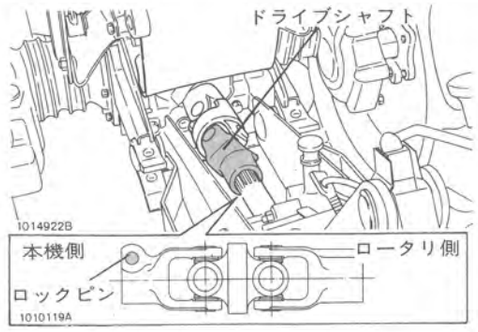
ロータリー側で取り外します。



⑧ジョイントカバーを取り外し、ゴムカバーを前方に上げます。



⑨ドライブシャフトのロックピンを押えてロータリー側に引き、ドライブシャフトを取り外します。



⑩トラクターを前進させ、ロータリー部を取り外します。

取り付けかた

⚠警告

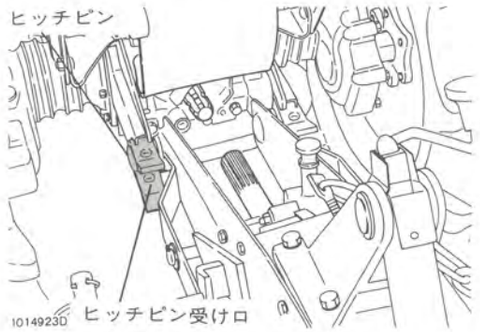
- **リフトリンクを片側だけ取り付けた状態で、ロータリーを上げないでください。**
- **PAC ワイヤーおよび、ドライブシャフトの着脱時は、必ずエンジンを停止してください。**

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

①平坦で地面が固いところで、トラクター後方の中心をロータリー前方の中心にほぼ合わせて止めます。

②トラクター後部のヒッチピン受け口とロータリー部のヒッチピンの上下位置が合うように、調節ハンドルで同じ高さにしてください。

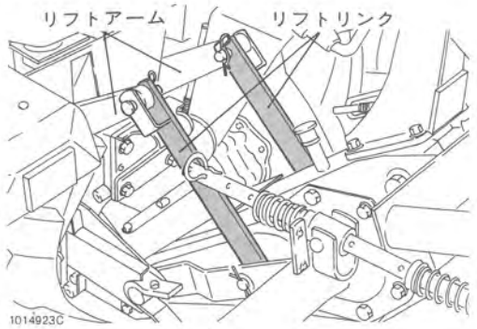
③トラクター後部のヒッチピン受け口にロータリー側のヒッチピンが入るまでトラクターを後進させます。



④左右のリフトリンクを取り付けます。

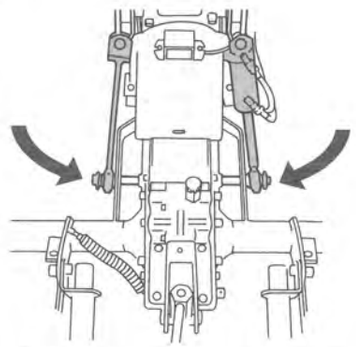
〈標準仕様〉

リフトアームにピンを差し込んで連結します。



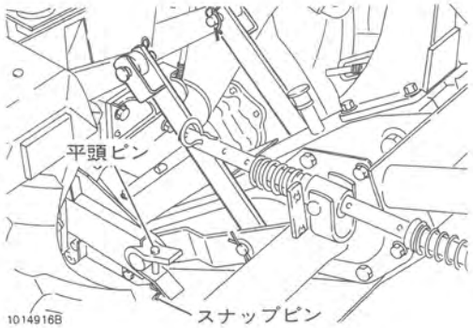
〈JUST マチック仕様〉

ロータリー側ピンにリフトリンクを取り付けます。

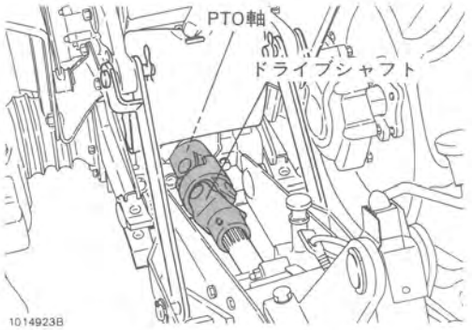


⑤耕うん（PTO）変速レバー、主変速レバーが「**中立**」位置にあることを確認した後、エンジンを始動します。

⑥作業機上下レバーを「**上**」位置方向に操作し、ロータリーを上げ、エンジンを停止して、ヒッチピン固定用の平頭ピンを差し込みます。スナップピンで平頭ピンの抜け止めをします。



⑦ロータリーを下げ、爪を地面に接地させ、ロータリー側へドライブシャフトを差し込み、ロックピンを押さえながらPTO軸にセットします。



⑧ジョイントカバーを取り付けてください。
⑨PACワイヤーを取り付けます。
(PAC仕様のみ)

【取扱いの注意】

- **ドライブシャフトのロックピンが、PTO軸の溝に入っていることを確認してください。溝に入るとピンが戻ります。**

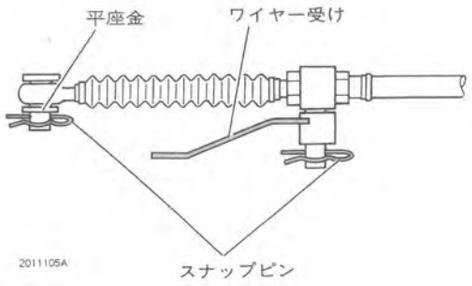
5. PACワイヤーの取り外し・取り付け・調整のしかた(PAC仕様)

⚠注意

- **PACワイヤーの取り付け・取り外しは、必ずエンジンを停止し作業機上下レバー「下る」(最下げ)位置、PACレバー「解除」(最下げ)位置、にして行ってください。守らないと、ロータリーが急に動いて傷害事故をおこすおそれがあります。**
- **PACワイヤーの調節確認作業のときは、トラクターとロータリーの周辺には人を近づけないでください。**
  また、リヤカバーを動かすときはロータリーが上下しますので、ロータリーの下には足を踏み込んだりしないでください。
  守らないとロータリーが急に動いて傷害事故をおこすおそれがあります。

取り外しかた

①左右の加圧ロッドのスナップピンを、一番上の穴に差し込み、リヤカバーを下げます。
②トラクター側のスナップピンと平座金を抜いて、PACワイヤー先端を取り外します。
③PACワイヤー点検・交換のときは、PACワイヤー後端をフィードバックロッドとアウタ受けから取り外します。

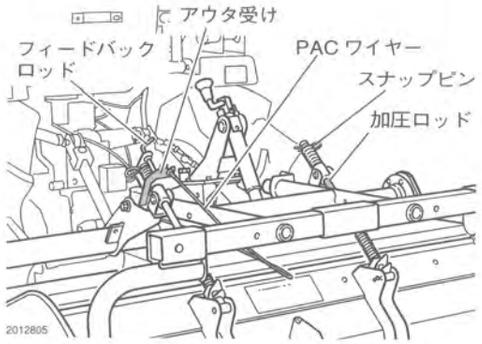


取り付けかた

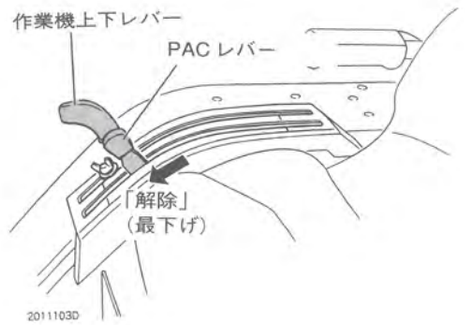
①左右の加圧ロッドのスナップピンを、一番上の穴に差し込み、リヤカバーを下げます。
②PACワイヤー後端をアウタ受けとフィードバックロッドに取り付けます。
③同様にPACワイヤー前端をトラクター側に取り付けます。
④PACワイヤーの調節をします。(次項参照)

PACワイヤーの調整

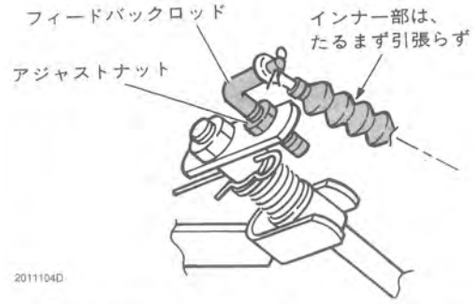
①左右の加圧ロッドのスナップピンを、一番上の穴に差し込み、リヤカバーを下げます。



②PACレバーを「解除」(最下げ)位置にして、エンジンを始動します。リヤカバーが接地しないように、作業機上下レバーでロータリーを地面より少し(4～5cm)浮かします。



③エンジンを停止し、PACワイヤー後端とフィードバックロッドを接続したときPACワイヤーのインナー部の張りを、たるまず・引かずの感じにフィードバックロッドのアジャストナットで調節し、固定してください。



④エンジンを始動し、PACレバーを「浅い」位置方向にしてもロータリーが上がらず、手でリヤカバーを少し持ち上げると、油圧が働いて自動的にロータリーが上がり、手を離すとロータリーが降下すれば、調節は完了です。





※もしPACレバーを「浅い」位置方向にしたときに、ロータリーが上がれば調整不良ですので、ロータリーを降してエンジンを止め、③の項目のPACワイヤーの張りを少したるませて、再度④の項の確認を行ってください。

⚠注意

- 取り外した回転部のカバー類は、衣服が巻込まれたりして危険ですので、必ず取り付けて作業してください。
- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、各レバーを「切」にして回転部が止まってから行ってください。

守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

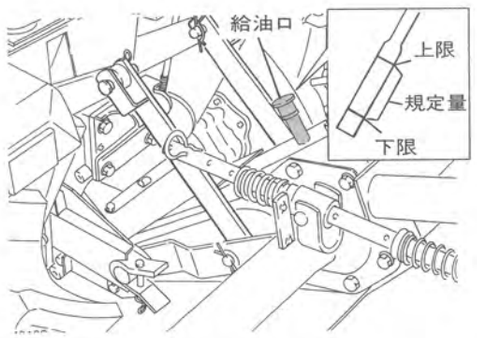
6. 定期点検一覧表

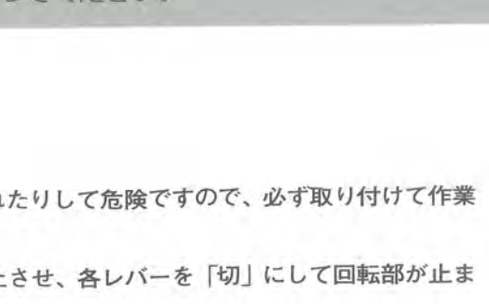
給油箇所	種類	容量		給油方法	50時間毎	200時間毎
		センターロータリー	サイドロータリー			
ロータリーケース	ギヤオイル EP#90	―	0.5ℓ	給油口より	点検	交換
ロータリーギヤボックス	ギヤオイル EP#90	1.0ℓ	0.5ℓ	給油口より	点検	交換

7. ロータリーギヤボックスオイルの点検・交換のしかた

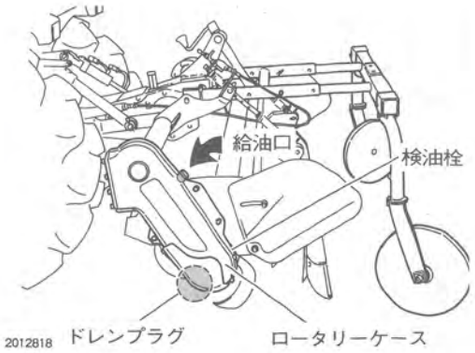
サイドロータリー

オイル量は、給油口の検油ゲージを外してオイルの有無を確認してください。
オイルを交換するときは、ドレンプラグから排油して、給油は上部給油口より規定量給油してください。オイルはギヤオイルEP#90を使用してください。



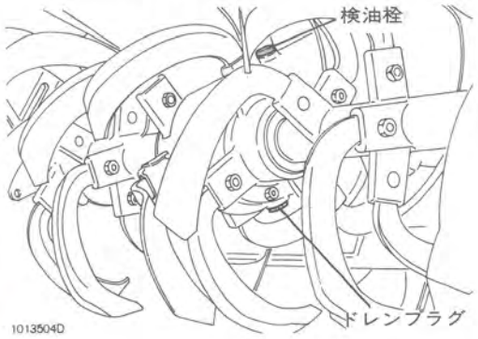


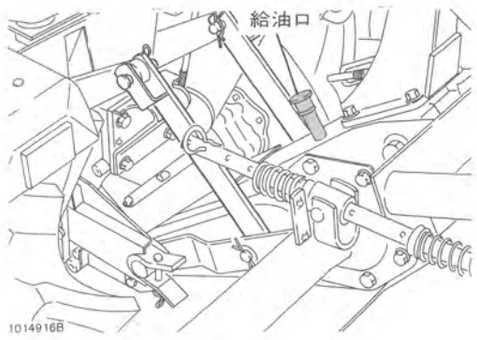
〈ロータリーケース〉
オイル量は、ロータリーを接地して、検油栓でオイルの有無を確認してください。
オイル交換するときは、ドレンプラグから排油して、給油は、上部給油口より規定量給油してください。オイルはギヤオイルEP#90を使用してください。



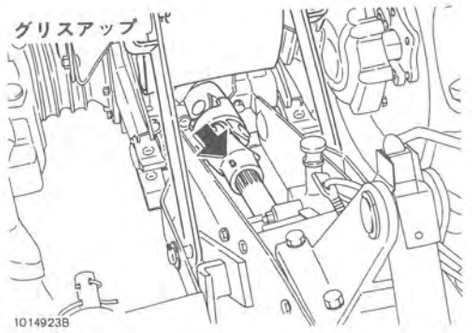
センターロータリー

オイル量は、ロータリーを接地して、検油栓でオイルの有無を確認してください。
オイル交換するときは、ドレンプラグから排油して、給油は、上部給油口より規定量給油してください。オイルはギヤオイルEP#90を使用してください。



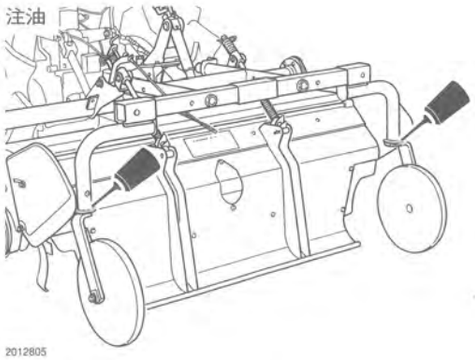


8. グリスアップ・注油



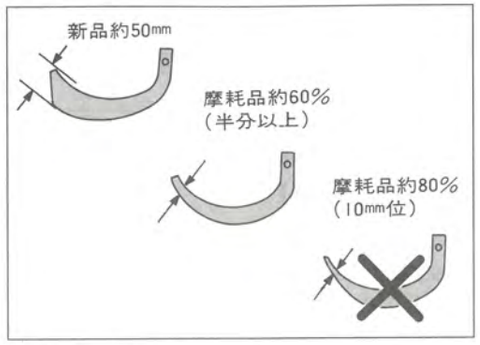
【取扱いの注意】

- 代かき作業のときは、作業後必ずグリスアップを行い、汚れたグリスを押し出してください。



9. 爪の交換時期

摩耗量が約半分を越えたら交換時期です。曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早めにお取り替えください。



※爪の取り付けかたは、84ページの「**1.耕うん爪の取り付けかた**」を参照してください。

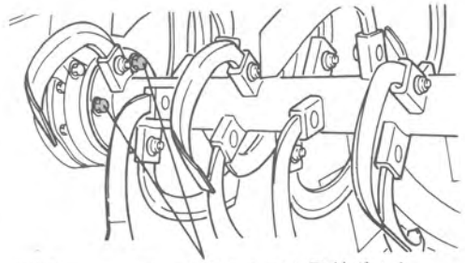
10. 各部のボルトの締め付け

⚠注意

- **平坦で固い場所を選び、トラクターのエンジンを停止して駐車ブレーキをかけ機体が動かないようにしてください。**
- **ロータリー落下防止のため、降下速度調節グリップを右に回して完全に締めてください。なお安全のために爪軸に木の台などをしてください。**

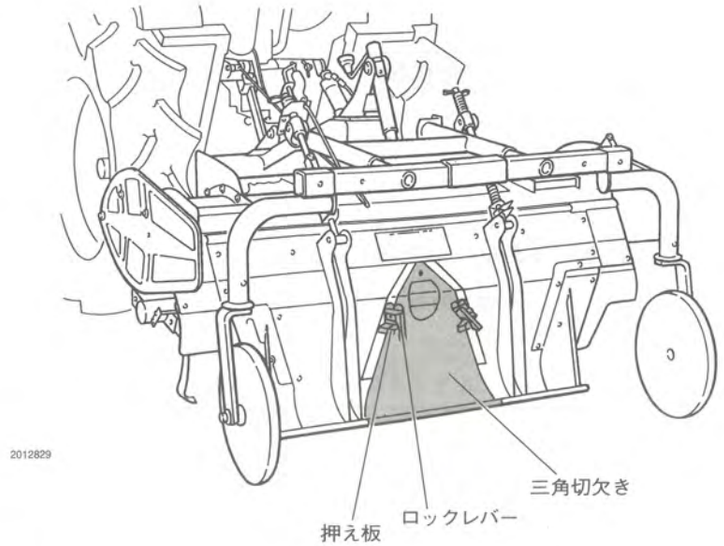
守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

ロータリー各部ボルト・ナットなどを点検し、ゆるんでいるところは締め付けてください。



1026307A　ロータリシャフト取付ボルト

11. リヤカバーバリエーション 三角切欠き付〈W仕様〉



センター培土作業性能を、より一層向上させます。

取扱方法

三角切欠きカバーの上部2ヶ所のロックレバーを引き起こし、左にまわしてネジをゆるめ、押え板をずらすと三角切欠きカバーが外れます。

不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。
「点検できないとき、直らないときは、購入先の農協又は販売店へ御相談ください。」

1.エンジン関係

状　況	点検箇所	処　置
メインスイッチを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「始動」に回してください。
	バッテリ液は規定量入ってますか。または放電してはいませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリ端子のゆるみ外れ、腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	ヒュージブルリンクが溶断していませんか。	溶断した原因の故障を点検・修理した後、新しいヒュージブルリンクと交換してください。
	スイッチが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
	スタータが故障していませんか。	サービス工場で修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行なってください。
	燃料コックが「C」(閉る) になっていませんか。	燃料コックを「O」(開く) にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていませんか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状　況	点検箇所	処　置
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損してはいませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータ防塵網、またはラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない	エアクリーナーが目詰りしていませんか。	エアクリーナーを点検してください。
	ノズルが焼きついていませんか。	サービス工場で修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にエンジン油圧ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。	オイル漏れが無いか点検し、オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場で修理をしてください。
予熱ランプが点灯しない	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中に充電ランプが点灯した	配線に異常がありませんか。	端子のゆるみ、汚損の点検、アース不良を修理してください。
	オルタネータが故障していませんか。	サービス工場で修理をしてください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2.クラッチ･ブレーキ関係

状　況	点検箇所	処　置
クラッチがすべる、または切れない	ペダルの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップしてください。

3.油圧関係

状　況	点検箇所	処　置
作業機が上がらない	作業機降下速度調節グリップが「閉」になっていませんか。	作業機降下速度調節グリップを「閉」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。またはOリングは破損してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機が下がらない	作業機降下速度調節グリップが「閉」になっていませんか。	作業機降下速度調節グリップを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。

4.電装関係

状　況	点検箇所	処　置
前照灯が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
方向指示器が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	方向指示器ユニットが故障していませんか。	方向指示器ユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリが放電していませんか。	充電してください。
警告音が鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンボタンの接触が悪くありませんか。	ホーンボタンを確認してください。

5.ロータリー関係

状　況	点検箇所	処　置
エンジンをかけるとロータリが上がり、リリーフ音が出る	リヤカバーが「上」げの状態になっていませんか。	リヤカバーを下げてください。
作業機上下レバーを、「下る」にしても作業機が下らない	作業機降下速度調節グリップが「閉」になっていませんか。	作業機降下速度調節グリップを「開」にしてください。

用語解説

あ行

アタッチメント
トラクターに後付けする部品。

安全スイッチ
クラッチを踏まないと、エンジンがかからないようにするためのスイッチ。

オルタネータ
エンジンからの動力で電気を発生させる装置。

か行

耕深
耕うんする深さ。

グロースタート
寒冷時、エンジンの始動性を良くするための補助装置。

さ行

JUST マチック
作業機の左右の傾きをコンピュータにより自動で制御する装置。

軸距
前・後タイヤの中心間の距離。

た行

チェックチェーン
トラクターに対し作業機が左右に振れる量を規制するチエーン。

トップリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の上部をつり下げているリンク。

ドライブシャフト
トラクターの動力を作業機へ伝達する為の軸。

は行

ヒュージブルリンク
電気配線に規定以上の電流が流れた場合に、電気系統の保護を行なう部品。

PAC ロータリー
尾輪を使わずリヤカバーセンサーで耕深を一定に保つ装置。

PTO（パワー　テイク　オフ）
作業機の動力を取り出すための軸。

や行

揚力
トラクターが作業機を上昇させる為の力。

ら行

リフトアーム
トラクターが作業機を上げる為のアーム。

リフトリンク
リフトアームとロアリンクを連結しているリンク。

リリーフ弁
油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁。

輪距
左右のタイヤ中心間の距離。

ロアリンク
作業機を装着する3点のリンクの内、作業機の下部をつり下げているリンクで左右1本づつある。

仕様

MT136（標準）・MT136S（果樹）

項目				形式 MT136	備考
重量	車両重量（kg）			520	
	附荷重量（kg）	後輪		20×2＋25×2＝90	アタッチメント
		本体		20×3＝60	アタッチメント
機関出力（PS/rpm）				13.5/2500	
形状				農耕用トラクタ	
車種				小型特殊自動車	
性能	走行速度（km/hr）	前進	1速	0.68	
			2速	1.03	
			3速	1.33	
			4速	2.02	
			5速	4.08	
			6速	6.19	
			7速	7.98	
			8速	12.1	
		後進	1速	1.26	
			2速	1.91	
機体寸法	全長			1999	（後輪タイヤ）
	全幅（標準性能）			960	
	全高（シート）			1178	
	全高			1824	
	軸距（標準状態）			1182	
	輪距	前輪（mm）		740	
		後輪（mm）		700・750・800	
	最低地上高（mm）			255（フロントアクスル）	
機関	銘柄型式			L3C	
	種類			ディーゼル	
	冷却方式			水冷ラジエタ	
	シリンダ数			3	
	内径×行程（mm）			70×70	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項目			形式 MT136	備考
機関	総排気量（cc）		808	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	スロットル	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（ℓ）		13	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量（ℓ）	2.7	
	冷却水量（ℓ）		3.9	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機（V-A）	12-40	
		始動発動機（V-KW）	12-1.6	
		蓄電池（V-Ah）	12-45	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	ダイヤフラム方式
	変速機潤滑油量（ℓ）		7.0	
	差動装置形式		傘歯車式（デフロック付）	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	4.50-10	
		後輪	7-16H	H：ハイラグ
	かじ取装置		ボールナット式	
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ペダルロック式	
運転装置	計器類及び照明装置		エンジン回転計、積算時間計、燃料計、パイロットランプ（予熱、充電、エンジン油圧、水温、方向指示）前照灯、警告音、方向指示灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法（mm）		35（JIS軸）	
	軸回転速度（rpm）		633、978	
	その他駆動部		なし	
	けん引装置形式		ピン固定式	アタッチ
昇降装置作業機	装着装置の種類		2P	
	標準ロータリ耕幅（mm）		1100	
	油圧制御方式		セレクト	

MT136L(大径)

項目			形式 MT136L	備考
重量	車両重量(kg)		535	
	附荷重量(kg)	後輪	20×2+25×2=90	アタッチメント
		本体	20×3=60	アタッチメント
機関出力(PS/rpm)			13.5/2500	
形状			農耕用トラクタ	
車種			小型特殊自動車	
性能	走行速度(km/hr)	前進 1速	0.72	
		2速	1.10	
		3速	1.42	
		4速	2.16	
		5速	4.36	
		6速	6.61	
		7速	8.53	
		8速	13.0	
		後進 1速	1.35	
		2速	2.05	
機体寸法	全長		2024	後輪タイヤ
	全幅(標準性能)		1040	
	全高(シート)		1203	
	全高		1849	
	軸距(標準状態)		1182	
	輪距	前輪(mm)	740	
		後輪(mm)	750・800・850	
	最低地上高(mm)		275(フロントアクスル)	
機関	銘柄型式		L3C	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエタ	
	シリンダ数		3	
	内径×行程(mm)		70×70	

項目			形式 MT136L	備考
機関	総排気量(cc)		808	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	スロットル	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(ℓ)		13	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量(ℓ)	2.7	
	冷却水量(ℓ)		3.9	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機(V-A)	12-40	
		始動発動機(V-KW)	12-1.6	
		蓄電池(V-Ah)	12-45	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	ダイヤフラム方式
	変速機潤滑油量(ℓ)		7.0	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	5-12	
		後輪	8-16H	H:ハイラグ
	かじ取装置		ボールナット式	
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ペダルロック式	
運転装置	計器類及び照明装置		エンジン回転計、積算時間計、燃料計、パイロットランプ(予熱、充電、エンジン油圧、水温、方向指示)前照灯、警告音、方向指示灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法(mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)		633、978	
	その他駆動部		なし	
	けん引装置形式		ピン固定式	アタッチ
昇降装置作業機	装着装置の種類		2P	
	標準ロータリ耕幅(mm)		1100	
	油圧制御方式		セレクト	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

MT146(PAC)

項目			形式 MT146	備考
重量	車両重量(kg)		540	
	附荷重量(kg)	後輪	20×2+25×2=90	アタッチメント
		本体	20×3=60	アタッチメント
機関出力(PS/rpm)			14.5/2600	
形状			農耕用トラクタ	
車種			小型特殊自動車	
性能	走行速度(km/hr)	前進 1速	0.75	
		2速	1.14	
		3速	1.48	
		4速	2.24	
		5速	4.53	
		6速	6.88	
		7速	8.87	
		8速	13.5	
		後進 1速	0.56	
		2速	1.10	
		3速	3.37	
		4速	6.59	
機体寸法	全長		2050	後輪タイヤ
	全幅(標準性能)		1040	
	全高(シート)		1203	
	全高		1849	
	軸距(標準状態)		1207	
	輪距	前輪(mm)	740	
		後輪(mm)	750・800・850	
	最低地上高(mm)		275(フロントアクスル)	
機関	銘柄型式		L3C	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエタ	
	シリンダ数		3	
	内径×行程(mm)		70×70	

項目			形式 MT146	備考
機関	総排気量(cc)		808	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	スロットル	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(ℓ)		13	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量(ℓ)	2.7	
	冷却水量(ℓ)		3.9	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機(V-A)	12-40	
		始動発動機(V-KW)	12-1.6	
		蓄電池(V-Ah)	12-45	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	ダイヤフラム方式
	変速機潤滑油量(ℓ)		7.0	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	5-12	
		後輪	8-16H	H:ハイラグ
	かじ取装置		ボールナット式	
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ペダルロック式	
運転装置	計器類及び照明装置		エンジン回転計、積算時間計、燃料計、パイロットランプ(予熱、充電、エンジン油圧、水温、方向指示)前照灯、警告音、方向指示灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法(mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)		608・802・1239	
	その他駆動部		なし	
	けん引装置形式		ピン固定式	アタッチ
昇降装置作業機	装着装置の種類		2P	
	標準ロータリ耕幅(mm)		1200	
	油圧制御方式		ポジション+PAC	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

MT146J(JUSTマチック)・MT156(PAC)

項目			形式 MT146J	形式 MT156	備考
重量	車両重量(kg)		555	560	
	附荷重量(kg)	後輪	20×2+25×2=90		アタッチメント
		本体	20×3=60		アタッチメント
機関出力(PS/rpm)			14.5/2600	15.5/2500	
形状			農耕用トラクタ		
車種			小型特殊自動車		
性能	走行速度(km/hr)	前進 1速	0.72	0.75	
		前進 2速	1.10	1.13	
		前進 3速	1.42	1.46	
		前進 4速	2.16	2.22	
		前進 5速	4.36	4.49	
		前進 6速	6.61	6.82	
		前進 7速	8.53	8.80	
		前進 8速	13.0	13.4	
		後進 1速	0.54	0.55	
		後進 2速	1.06	1.09	
		後進 3速	3.24	3.34	
		後進 4速	6.34	6.54	
機体寸法	全長		2050	2075	後輪タイヤ
	全幅(標準性能)		1040	1090	
	全高(シート)		1203	1229	
	全高		1849	1874	
	軸距(標準状態)		1207	1207	
	輪距	前輪(mm)	740	740	
		後輪(mm)	750・800・850	800・850・900	
	最低地上高(mm)		275 (フロントアクスル)	290 (フロントアクスル)	
機関	銘柄型式		L3C	L3E	
	種類		ディーゼル		
	冷却方式		水冷ラジエタ		
	シリンダ数		3		
	内径×行程(mm)		70×70	76×70	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項目			形式 MT146J	形式 MT156	備考
機関	総排気量(cc)		808	952	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ		
		噴射弁形式	スロットル		
		燃料	ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量(ℓ)		13		
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量(ℓ)	2.7		
	冷却水量(ℓ)		3.9		サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機(V-A)	12-40		
		始動発動機(V-KW)	12-1.6		
		蓄電池(V-Ah)	12-45		
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板		ダイヤフラム方式
	変速機潤滑油量(ℓ)		7.0		
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)		
	終減速機形式		平歯車		
走行装置	車輪	前輪	5-12	5.00-12	
		後輪	8-16H	8-18H	H:ハイラグ
	かじ取装置		ボールナット式		
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ		
	駐車ブレーキ		ペダルロック式		
運転装置	計器類及び照明装置		エンジン回転計、積算時間計、燃料計、パイロットランプ(予熱、充電、エンジン油圧、水温、方向指示)前照灯、警告音、方向指示灯		
動力取出軸	回転方向		右回り		
	軸寸法(mm)		35(JIS軸)		
	軸回転速度(rpm)		608・802・1239	584・771・1191	
	その他駆動部		なし		
昇降装置作業機	けん引装置形式		ピン固定式		アタッチ
	装着装置の種類		2P		
	標準ロータリ耕幅(mm)		1200	1300	
	油圧制御方式		ポジション+PAC		

MT156J(JUSTマチック)

項目			形式 MT156J	備考
重量	車両重量(kg)		575	
	附荷重量(kg)	後輪	20×2+25×2=90	アタッチメント
		本体	20×3=60	アタッチメント
機関出力(PS/rpm)			15.5/2500	
形状			農耕用トラクタ	
車種			小型特殊自動車	
性能	走行速度(km/hr)	前進 1速	0.75	
		前進 2速	1.13	
		前進 3速	1.46	
		前進 4速	2.22	
		前進 5速	4.49	
		前進 6速	6.82	
		前進 7速	8.80	
		前進 8速	13.4	
		後進 1速	0.55	
		後進 2速	1.09	
		後進 3速	3.34	
		後進 4速	6.54	
機体寸法	全長		2075	後輪タイヤ
	全幅(標準性能)		1090	
	全高(シート)		1229	
	全高		1874	
	軸距(標準状態)		1207	
	輪距	前輪(mm)	740	
		後輪(mm)	800・850・900	
	最低地上高(mm)		290 (フロントアクスル)	
機関	銘柄型式		L3E	
	種類		ディーゼル	
	冷却方式		水冷ラジエタ	
	シリンダ数		3	
	内径×行程(mm)		76×70	

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

項目			形式 MT156J	備考
機関	総排気量(cc)		952	
	燃料系統	噴射ポンプ	ボッシュ	
		噴射弁形式	スロットル	
		燃料	ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量(ℓ)		13	
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式	
		潤滑油量(ℓ)	2.7	
	冷却水量(ℓ)		3.9	サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機(V-A)	12-40	
		始動発動機(V-KW)	12-1.6	
		蓄電池(V-Ah)	12-45	
動力伝動部	主クラッチ		乾式単板	ダイヤフラム方式
	変速機潤滑油量(ℓ)		7.0	
	差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)	
	終減速機形式		平歯車	
走行装置	車輪	前輪	5.00-12	
		後輪	8-18H	H:ハイラグ
	かじ取装置		ボールナット式	
	足ブレーキ		機械式湿式ディスクブレーキ	
	駐車ブレーキ		ペダルロック式	
運転装置	計器類及び照明装置		エンジン回転計、積算時間計、燃料計、パイロットランプ(予熱、充電、エンジン油圧、水温、方向指示)前照灯、警告音、方向指示灯	
動力取出軸	回転方向		右回り	
	軸寸法(mm)		35(JIS軸)	
	軸回転速度(rpm)		584・771・1191	
	その他駆動部		なし	
昇降装置作業機	けん引装置形式		ピン固定式	アタッチ
	装着装置の種類		2P	
	標準ロータリ耕幅(mm)		1300	
	油圧制御方式		ポジション+PAC	

ロータリーの仕様

項目＼名称	P106S	P116S	P126S	P136S	P156S	P096C	P116C	P126C
装着方式	2P					2P		
駆動方式	サイドドライブ					センタードライブ		
耕うん幅 (mm)	1000	1100	1200	1300	1500	900	1100	1200
耕うん爪 (本)	24	26	28	30	30	26	30	32
爪回転直径 (mm)	450					450		
残耕処理装置	—	—	—	—	—	クロスセンタ		
重量 (kg)	127	133	139	145	146	131	143	149

※この使用は改良などにより、予告なく変更することがあります。

トラクターとロータリーの組合せ

形式＼耕副		900	1000	1100	1200	1300	1500
MT136	サイド			◎			
	センター	○	○	◎			
MT146	サイド		○	○	◎		
	センター		○	○	◎		
MT156	サイド		○		○	◎	○
	センター		○		◎		

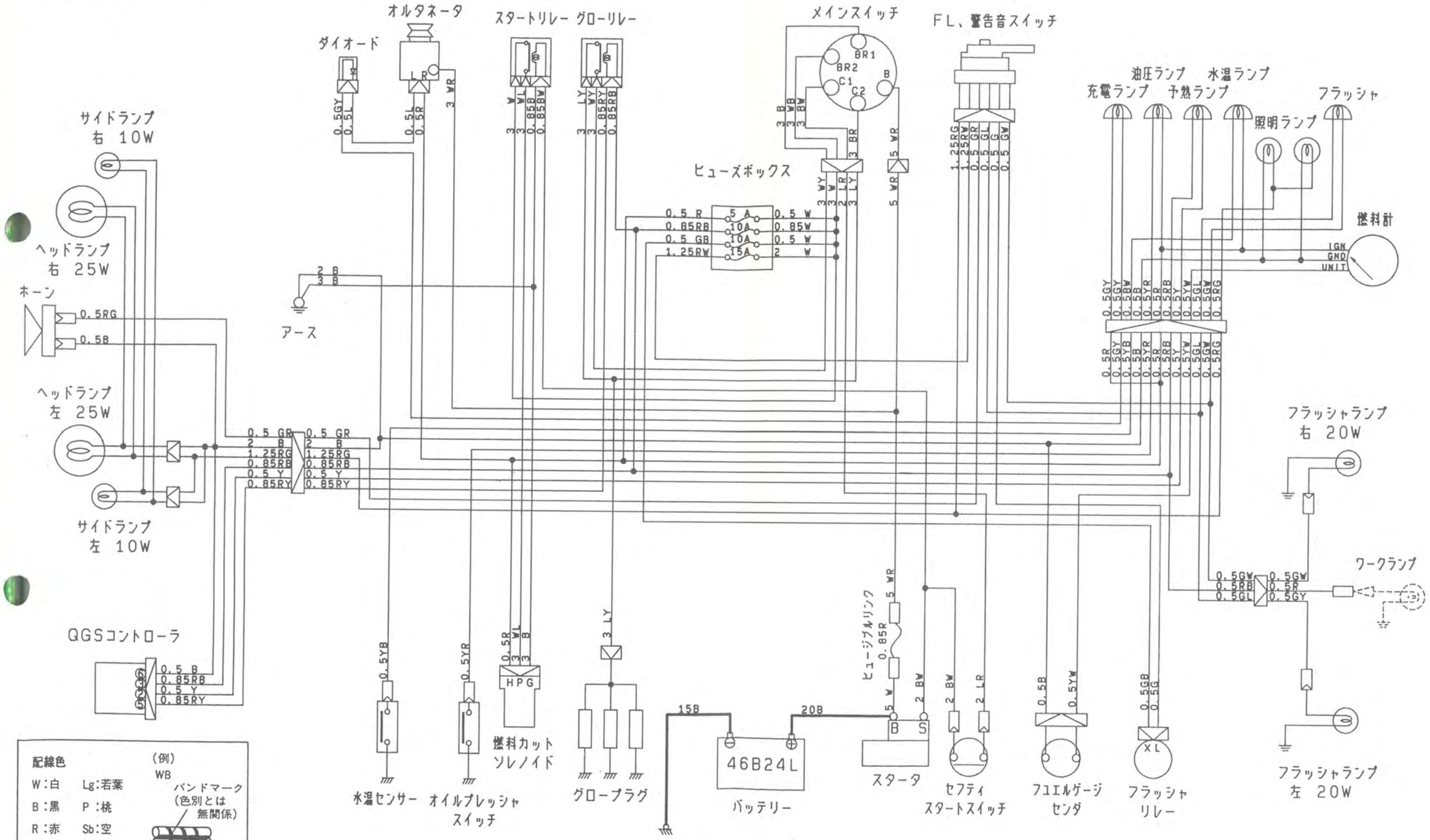
◎は、標準耕幅

標準付属品

No.	品名	サイドロータリー	センターロータリー	ロータリー無し	備考
1	スパナ 8×10	1	1	1	
2	スパナ 12×14	1	1	1	
3	スパナ 17×19	1	1	1	
4	スパナ 22×24	1	1	1	
5	プライヤ 150	1	1	1	
6	メガネレンチ 17×19	1	1	1	
7	ドライバ（差換式）	1	1	1	
8	キー（メインスイッチ用）	1	1	1	予備品
9	バックミラー R CMP	1	1	1	
10	ボルト 8×20(SW付)	2	2	2	
11	PTO シャフトカバー	1	1	1	
12	保証書	1	1	1	
13	点検整備表	1	1	1	
14	安全ポスター	1	1	1	
15	取扱説明書	1	1	1	
16	サイドリヤカバー（右）	1	1		
17	サイドリヤカバー（左）	1	1		
18	ナタ爪	1			

配線図

MT136・MT146・MT156
配線接続図



配線色			
W	白	Lg	若葉
B	黒	P	桃
R	赤	Sb	空
Y	黄	Gr	灰
G	緑	Dg	暗緑
L	青	Ch	焦茶
Br	茶	O	橙

(例) WB
バンドマーク (色別とは無関係)
地色 白
ストライプ 黒

JUSTマチック配線接続図

